

第三百九十四條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者

八十錢以上三圓以下ノ科料ニ處ス

一 私有地外へ濫リニ牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者

二 路上ノ植木、市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者

三 橋梁又ハ堤防ノ害トナル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

四 牛馬、諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

五 車馬ヲ並ヘ牽キ又ハ並ヘ驅テ行人ノ妨害ヲシタル者

六 水路ニ於テ舟筏ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

七 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

八 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽セニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

十 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

- 十一 通行禁止ノ榜示ヲ侵シテ通行シタル者
- 十二 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十三 公園ノ規則ヲ犯シタル者

第二章 衛生ニ關スル罪

第三百九十五條 公許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者ハ三日以上十五日以下ノ拘留又ハ一圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

第三百九十六條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留又ハ十錢以上二圓以下ノ科料ニ處ス

一 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

二 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者

三 汚穢物ヲ道路、家宅ニ投擲シタル者

第三百九十七條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ十錢以上三圓以下ノ科料ニ處ス

一 溝渠、下水ヲ毀損シ又ハ官署、公署ノ督促ヲ受ケテ溝渠、下水ヲ浚ハサル者

二 官署、公署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者

第三章 風俗ニ關スル罪

第三百九十八條 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合、容止ヲ爲シタル者ハ五日以上二十日以下ノ拘留又ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者再ヒ犯シタルトキハ一等ヲ加フ三犯以上ノ者亦同シ

第三百九十九條 公ノ場所又ハ公衆ノ目ニ觸ル可キ場所ニ於テ猥褻ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ三日以上十五日以下ノ拘留又ハ一圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

第四百條 風俗ヲ害スル冊子、圖畫其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ販賣シ又ハ販賣若クハ賃貸ニ供シタル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處シ其冊子、圖畫、物品ハ之ヲ沒收ス

第四百一條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ於テ神佛又ハ死者ニ對シ公然不敬ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留又ハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス

若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ加フ
第四百二條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ一

○第四編○第三章風俗ニ關スル罪

日以上五日以下ノ拘留又ハ十錢以上二十圓以下ノ科料ニ處ス

一 公然獸類ヲ虐待シ若クハ顯著ナル過度ノ勞働ヲ爲サシメタル者

二 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

第四百三條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者八十錢以上三圓以下ノ科料ニ處ス

一 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業ト爲ス者

二 道路ニ於テ放歌、高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

三 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

第四章 身體、財産ニ關スル罪

第四百四條 人ヲ毆打シ疾病、創傷ニ至ラサル者ハ五日以上二十五日以下ノ拘留又ハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス

第四百五條 自己ノ所有地内又ハ其管守スル地内ニ遺棄セラレタル幼者、老者、病者アルコトヲ覺知シ故ナク之ヲ扶助セス又ハ官署、公署ニ申告セサル者ハ二日以上十日以下ノ拘留又ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處ス

○第四編○第四章身體財産ニ關スル罪

第四百六條 醫師、產婆故ナクシテ急病人、又ハ分娩セ
ントスル婦女ノ招キニ應セサル者ハ一日以上五日
以下ノ拘留又ハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス
第四百七條 公然人ヲ罵詈、嘲弄シタル者ハ三日以上
十五日以下ノ拘留又ハ一圓以上十圓以下ノ科料ニ
處ス

第四百八條 商賈、農工其營業ノ場所ニ於テ又ハ其營
業ノ爲メ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所持シタル者
ハ五圓以上二十五圓以下ノ科料ニ處ス

第四百九條 價ヲ償フ能ハサルコトヲ知テ旅店、飲食

店其他飲食物ノ販賣者ヲシテ飲食物ヲ供給セシメ
タル者ハ五日以上二十五日以下ノ拘留ニ處ス
賃金ヲ償フ能ハサルコトヲ知テ營業ノ船車ニ乘リ
タル者亦同シ

第四百十條 渡船、橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ
通行錢ヲ取リタル者ハ三日以上十五日以下ノ拘留
又ハ二圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス

第四百十一條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ
一日以上五日以下ノ拘留又ハ十錢以上二圓以下ノ
科料ニ處ス

- 一 渡船、橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其通行錢ヲ出サスシテ通行シタル者
 - 二 官署、公署ノ許可ヲ得スシテ家畜ヲ官有地若クハ公有地ニ牧養シタル者
 - 三 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ動物ヲ解放シタル者
 - 四 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百十二條 左ニ記載シタル所爲ヲ行ヒタル者ハ十錢以上三圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

- 二 邸宅ノ番號、標札、招牌又ハ貸家、賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
 - 三 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
 - 四 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レ若クハ乗入レタル者
- 第四百十三條 第四百四條、第四百七條、第四百九條、第四百十一條、第四百十二條ニ記載シタル罪ハ被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス
- 附 則

第四百十四條 此法律ハ明治二十五年四月一日ヨリ
施行ス

改正刑法案説明書

改正刑法案說明書

情々輓近世態ノ傾向ヲ洞察スルニ文物制度日一日ニ改良ノ途ニ就ク殊ニ法律事業ヲ以テ其顯著ナルモノト回顧スレハ我刑法實施ノ期ハ實ニ明治十五年ニ在リ爾來星霜ヲ經過スルコト茲ニ九年ノ長キニ達セリ其間社會ノ變遷ニ因リ曩時有要ノ事物ニシテ今日既ニ陳腐ニ屬スルモノアリ又曩時ニ在テ必要ナキモノ却テ今日ニ於テ之ヲ興スノ必要ヲ感スルニ至リタルモノアリ且近來社會ニ創生スル新事物ノ如キハ從前吾人ノ想像ニタモ畫カサルモノ多キニ居ル學術上ニ於テモ亦然リ之ヲ曩時ニ比スレハ一般學理ノ長足進歩ヲ爲シタルハ實ニ驚クニ堪ヘタリ由是觀之十年前ノ頒布ニ係ル我刑法ノ條項ニシテ既ニ無用ニ屬シタルモノ若クハ不備ノ點ヲ生シタルハ蓋シ勢ノ免ル可カラサル所ナリ其レ然リ而シテ法律ハ元來國民ノ意向ヲ充タシ公共

○改正刑法案說明書

ノ必要ニ應ス可キモノナルカ故ニ今日我刑法ニ改正ヲ加ヘテ以テ社會ノ變遷ニ伴ハシムルハ國家ノ要務ナリトス吾人既ニ茲ニ見ルアリ從來現行刑法ニ對シ學者ノ批議ヲ容レタル點及ヒ執法者ノ應用ニ苦ムノ箇所ヲ研究シ傍ラ之ヲ歐洲各國ノ法律ニ參酌シ夙夜匪懈其改正ニ着手シ漸ク結了ヲ告クルニ至リタルヲ以テ其改正案ヲ帝國議會ノ議ニ付シ其協賛ヲ得ント欲ス因テ左ニ其改正變更ノ主要ナル點ヲ略述シテ議員諸氏ノ參考ニ供ス

第一 現行刑法中ニ設ケタル節目ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ罪ノ種類ヲ重罪輕罪違警罪ノ三種ニ分テ第二編ニ公益ニ關スル重罪輕罪ヲ規定シ第三編ニ身體財產ニ對スル重罪輕罪ヲ規定シ第四編ニ違警罪ヲ規定シタリ其重罪輕罪ヲ二編ニ區別シタルハ蓋シ公益ニ關スル罪ト私益ニ關スル罪トヲ各箇ニ記載シ以テ犯罪ノ類別ヲ明瞭ナラシメントスルノ趣旨ニ出タルヤ必セリ此區別タル固ヨリ不可ナルナシト雖モ現行刑法ハ此區別ヲ設ケタルニ拘ハラズ其第二編中ニ私益ニ關スル罪ヲ掲ケ又第三編中ニ公益ニ關スル罪ヲ規定シ加フルニ同性質ノ犯罪ニシテ其一ハ之ヲ公益ニ關スル罪トシテ第二編ニ規定シ他ノ一ハ之ヲ私益ニ關スル罪トシテ第三編ニ規定シタルカ如キハ學理上其當ヲ得サルノミナラズ又々法文ノ体裁ヲ失シタルモノト言ハサルヘカラサルナリ試ニ其一例ヲ舉ケンニ放水決水ノ

罪ハ公共ノ靜謐ヲ害スル罪ニシテ管ニ一己人ノ私益ヲ害スルニ止マ
ラサルナリ然ルニ現行刑法ハ之ヲ第三編私益ニ關スル罪ノ中ニ規定
セリ反之シテ人ノ住所ヲ犯ス罪ノ如キハ實ニ一己人ノ權利ヲ害スル
罪ニ過キサルナリ然ルニ現行刑法ハ之ヲ第二編公益ニ關スル罪ノ中
ニ規定セリ又偽證誣告ノ罪ハ一ハ證言ニ因リ又一ハ申告ニ因リ裁判
所ヲシテ錯誤ニ陷ラシメントスル所爲ナレハ其罪ヲ犯スノ方法ヲ異
ニスト雖モ其罪質ニ至テハ二者相徑庭スル所之ナカル可シ然ルニ現
行刑法ハ偽證罪ヲ以テ第二編中信用ヲ害スル罪ト爲シ誣告罪ヲ以テ
第三編中身體ニ對スル罪トシタルカ如キ即チ之ナリ
更ニ步チ轉シテ現行刑法第二編第三編中ニ規定シタル節目ニ就キ觀
察ヲ下タスニ第二編ハ之ヲ分テ九章ト爲シ而シテ其靜謐ヲ害スル罪
ヲ定メタル節目中ニ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪囚徒逃走ノ罪及

ヒ罪人ヲ藏匿スル罪等ヲ規定シ又其信用ヲ害スル罪ヲ定メタル節目
中ニ偽證ノ罪等ヲ規定シタルカ如キハ配置ノ宜シキヲ得タルモノト
言フヲ得サルナリ殊ニ第三編ハ僅カニ身體ニ對スル罪及ヒ財産ニ對
スル罪ノ二章ニ區別シ而シテ監禁誹毀及ヒ姦通ノ罪等ヲ以テ身體ニ
對スル罪トシタルカ如キハ最モ不當ノ規定ナリトス蓋シ監禁ノ罪ノ
如キハ人ノ自由ヲ牽制スルノ所爲ヲ罰シ誹毀姦通ノ罪ノ如キハ人ノ
名譽ヲ毀損スルノ所爲ヲ罰スルモノナルヲ以テナリ
前述ノ理由ニ基キ改正法ハ第二編ニ官ニ抗スル罪及ヒ裁判事務ヲ妨
害スル罪ノ二章ヲ追加シ官吏公吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪其他官
署公署ノ事務ニ妨害ヲ與フル罪ヲ官ニ抗スル罪トシ又偽證誣告其他
裁判事務執行ノ妨害ト爲ルヘキ性質ノ犯罪ヲ裁判事務ヲ妨害スル罪
トシテ規定セリ而シテ其第三編ニハ自由ニ對スル罪及ヒ名譽ニ對ス

ル罪ノ二章ヲ追加シ監禁其他人ノ自由ヲ害スヘキ罪ハ之ヲ自由ニ對スル罪トシ誹毀姦通ノ如キ人ノ名譽ヲ害スル罪ハ之ヲ名譽ニ對スル罪トシテ規定シタリ

又現行刑法ハ重罪輕罪ニ付テハ罪ノ種類ヲ區別シタリト雖モ違警罪ニ付テハ是等ノ區別ヲ設ケズ然ルニ違警罪モ亦各種ノ罪質ヲ包含スルヲ以テ仍ホ重輕罪ノ如ク罪ノ種類ヲ區別セサルヘカラサルモノナリトス又現行刑法ニ據ルトキハ違警罪ハ一ニ刑ヲ基本トシテ罪ヲ定メタルカ故ニ某罪ハ如何ナル刑ニ處セラル可キヤヲ知ラントセハ順次其條文ヲ逐フニ非カレハ之ヲ知ルコトヲ得ス之レ學理上其當ヲ得サルノミナラス實際迂遠ノ規定ナリト云ハサルヘカラス故ニ改正法ハ是等ノ點ニ付キ違警罪ニ關スル規定ニ大ニ修正ヲ加ヘタリ

第二 規則違犯ノ條項ヲ削除シタルコト

現行刑法ニ於テハ普通犯罪ノ外諸種ノ規則犯ヲモ規定スルコト、爲シタリ即チ私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪傳染病豫防規則ニ關スル罪危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪等之ナリ然ルニ規則犯罪ノ如キハ元來其性質上罪トナル可キ所爲ニ非ス特ニ規則ノ發布アリタルカ爲メ始メテ罪トシ罰セラル、モノナリ而シテ其特別規則タル大概社會一時ノ必要ニ基キテ設定セラル、モノナレハ常ニ一定不變ノ規定ニ非サルカ故ニ之ヲ普通犯罪ト共ニ刑法中ニ規定スルハ不可ナリ且各種ノ規則ニ付テハ其規定スル所或ハ重大ナルモノアリ或ハ輕微ナルモノアリ從テ其違犯ノ所爲ニ亦多輕重ノ區別アルハ論ヲ竣タサルナリ然ルニ現行刑法ノ如ク各種ノ規則犯ニ付テハ何レモ單純ナル一二ノ條文ヲ設ケテ以テ其所犯ノ重大ナルト輕微ナルトヲ問ハス之ヲ同一ニ處分セントスルハ適當ノ規

定ニ非サルナリ故ニ改正法ニ於テハ規則ニ關スル犯罪ハ盡ク之ヲ削除シ各規則ニ就テ其處罰ヲ規定スルコト、爲シタリ

第三 刑名刑期ヲ變更シタルコト

現行刑法ニハ重罪ノ刑ヲ死刑徒刑懲役流刑禁獄ニ區別シタリ然ルニ徒刑懲役ノ如キハ刑期ニ差等ヲ設ケタルノミニシテ其犯人ヲ獄舎ニ繋留シ苦役ニ服セシムル等ニ至テハ毫モ相異ナル所ナシ流刑ノ禁獄ニ於ケルモ亦然リ殊ニ流刑ノ如キハ實ニ有名無實ノ刑タルニ過キス之ヲ要スルニ刑名ヲ數種ニ區別スルハ徒ニ煩雜ヲ來スノミニシテ何等ノ利益ヲ見サルナリ故ニ改正法ニ於テハ此ノ如キ無用ノ區別ヲ廢シ重罪ノ刑ハ之ヲ死刑懲役禁獄ノ三種ト爲シタリ
又現行刑法ハ輕罪ノ刑ニ付テハ禁錮ヲ二種ニ區分シ重禁錮輕禁錮ト爲シタリ而シテ其重輕ノ文字ハ徒ニ有役無役ノ刑ヲ示スノ符徴タル

ニ過キス且輕禁錮ニシテ其刑期ノ長キモノハ之ヲ短期ノ重禁錮ニ比スルトキハ其刑決シテ輕キニアラサルナリ故ニ改正法ニ於テハ輕禁錮重禁錮ノ名稱ヲ改メテ有役禁錮無役禁錮ト爲シタリ
又重罪ノ刑ノ刑期ハ相交又スルコトナリ例ヘハ重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲シタルカ如ク各々其刑ニ固有ノ範圍ヲ定メ且各刑ノ間ニ一年ノ空位ヲ設ケタルヲ以テ重罪ノ刑ヲ加減スルトキハ一等毎ニ一年ノ空位ヲ除去スルニ因リ加重スルトキハ重キニ過キ減輕スルトキハ輕キニ過クノ結果ヲ生スルニ至ルナリ又現行刑法ニ定メタル刑期ノ範圍ハ極メテ狹隘ナルヲ以テ裁判官ハ罪刑ノ適用ヲ爲スニ窮屈ニシテ實際ノ不便擲カラス殊ニ違警罪ノ如キハ刑期最モ狹隘ニシテ且輕微ニ失ス之レ刑罰ハ犯人ニ苦痛ヲ感セシムルノ原則ニ違背スルモノナリト言ハサルヘカラス蓋シ五錢ノ

○說明書○第三

科料ノ如キハ實ニ刑罰ニシテ刑罰ニアラス殆ント兒戯ト一般ナルヲ以テナリ故ニ改正法ニ於テハ重罪ノ刑ト雖モ亦相互ノ刑期ヲ交叉スルコトト定メ且一般ノ罪ニ付テ刑罰ノ範圍ヲ擴張シ殊ニ違警罪ノ如キハ科料ノ多額ヲ二十五圓トシ拘留ノ長期ヲ二十五日ト定メタリ

第四 外國ニ於テ罪ヲ犯シタル者ノ處分ニ關スル規定ヲ設ケタルコト

現行刑法ニハ日本人外國ニ在テ日本ノ法律ニ背キ罪ヲ犯シタル者ヲ處分スルノ規定ナキヲ以テ其處分方ニ付テハ未タ一定ノ說アラズ固ヨリ日本人ハ本邦外ニ在ル間ト雖モ本邦ノ法律ヲ遵奉ス可キ義務アルハ疑ナキ所ナレハ縱ヒ刑法ニ於テ其處分ニ關スル條文ヲ規定セサルモ之ヲ處罰シテ可ナリトセンカ其違犯ノ所爲區々タル違警罪ヲ犯シタルトキト雖モ猶之ヲ罰セサルヘカラサルナリ然ハ則チ寧ロ法ニ

明文ナキ以上ハ外國ニ在テ日本ノ法律ニ背キ罪ヲ犯シタリト雖モ盡ク之ヲ不問ニ付ス可シトセンカ其犯罪如何ニ重大ナルトキト雖モ之ヲ處罰スルヲ得サルニ至ラン之レ何レモ適當ノ說ニアラサルナリ必竟此疑問ノ生スルハ刑法ノ不備ニ起因シタルニ外ナケレハ改正法ニ於テハ其犯罪日本國ニ對スル罪皇室ニ對スル罪及ヒ貨幣ヲ偽造變造スル罪ニ關スルトキハ總テ之ヲ處罰スルコトト爲シ其他ノ重罪輕罪ハ二三ノ條件ヲ具備シタルトキニ非サレハ之ヲ處罰セサルコトノ規定ヲ設ケタリ

第五 懲役禁獄ヲ執行ス可キ場所ヲ限定セサルコト

現行刑法ハ徒刑流刑ハ之ヲ島地ニ於テ執行シ懲役禁獄ハ之ヲ内地ニ於テ執行スルコトト定メタリト雖モ此規則ハ實際ニ適用シ得ヘカラサルコトナリト信ス元來我國ニ於テハ内地ト島地トノ區域判然セカ

ルヲ以テナリ瓦シヤ將來其區域ヲ定ムルコトアルニモセヨ故ラニ僅
 タノ囚徒ヲ島地ニ發遣スルコトト爲ストキハ之カ爲メニ特別ノ費用
 ヲ要シ終ニ國庫ヲシテ出入相償ハサルノ結果ヲ生セシムルニ至ルヘ
 シ之レ我國ノ理財上ニ於テ最モ不可ナリトスル所ナリ蓋シ殖民地ヲ
 有スル國ニ於テハ此規則ヲ設クルトキハ内地ニ不長ノ徒ヲ蒞リ殖民
 地ヲシテ將來繁榮ヲラシムルノ希望アルハ必然ナリ然レモ我國ニ於
 テ此規則ヲ存スルハ到底有名無實ノモノナルニ過キカルヲ以テ改正
 法ハ一般刑ヲ執行スヘキ場所ヲ限ラサルコトト爲シタルナリ

第六 罰金科料ノ換刑處分ニ關スル規定ヲ改正シタルコト

現行刑法ニ於テ罰金ヲ一月内ニ納完セサルカ又ハ料科ヲ十日以内ニ
 納完セサルトキハ必ス之ヲ禁錮拘留ニ換ヘ處分スルコトト爲セリ蓋
 シ罰金科料ノ換刑處分ハ舊ニ金刑ヲ體刑ニ變換スルノミニ非ズ主ト

シテ犯人ヲシテ可成罰金若クハ料科ヲ納完セシメントスルノ旨趣ニ
 出ツルモノナルヘシ然ルニ現行刑法ノ如ク規定スルトキハ犯人ヲシ
 テ金刑ト體刑ニ付キ利害得失ヲ考量シ二者ノ一ヲ選マシムルニ至ル
 ヘキカ故ニ犯人實ハ資力アリト雖モ仍ホ換刑處分ヲ受クル者アルニ
 至リ徒ニ獄費ヲ增加シ國庫ノ支出ヲ多カラシム可シ是等ノ弊ナカラ
 シメンカ爲メ改正法ハ裁判官ヲシテ犯人ノ情狀ヲ考察セシメ因テ以
 テ換刑處分ヲ爲スト否トヲ定メシムルコトト爲シタリ

第七 剝奪公權ノ結果トシテ生スル事項ヲ減少シタルコト

(一) 現行刑法第三十一條ニ所謂貴號トハ華族若クハ爵等ノ總稱ニシ
 テ是等ハ常ニ其家ニ專屬シテ人ニ屬スルモノニ非サレハ縱ヒ犯人ニ
 對シテ其權利ヲ剝奪スト雖モ其子孫ヲシテ之ヲ繼承スルノ權利ヲ減
 失セシム可カラサルナリ現行刑法ハ其犯人ニノミ貴號ヲ剝奪セント

ナルノ旨趣ナリトスルモ此場合ニ於テハ先ツ犯人ニ代リ戸主タル可
キ者ヲ定メ而シテ后其貴號ヲ繼カシメサル可カラス果シテ然ルトキ
ハ終ニ犯罪ニ因リ強テ戸主ヲ退カシムルノ結果ヲ生スルニ至ルナリ
此ノ如キ不都合ヲ避ケンガ爲メ改正法ニ於テハ剝奪公權ノ結果トシ
テ貴號ヲ失ハシメサルコトト爲シタリ

(二) 年金恩給ノ如キモノハ元來名譽ノ爲メニ付與スルモノニ非スシ
テ實ニ功勞ノ報償タルニ過キサルナリ然ハ則チ犯罪ニ因テ其功勞ノ
報償ヲ消滅セシムルハ不理不當ノコトタルヲ免レサルヲ以テ改正法
ニ於テハ現行刑法ノ規定ヲ改メ年金恩給ノ如キモノハ犯罪ニ因テ剝
奪ス可カラサルコトト爲シタリ

(三) 裁判所ニ於テ證人トナルコトハ國民ノ權利ト言ハンヨリハ寧ロ
其公ノ義務ニ屬スト言フヲ以テ正當ノモノトス故ニ犯人ヲシテ法律

上證人タラシメサルハ其義務ヲ免レシムルト一般ニシテ因テ犯人ニ
何等ノ苦痛ヲ與フルノ効ヲ見サルナリ加之ナラス事件ニ依リ犯者其
人ニ非サレハ證明ヲ爲シ能ハサルノ場合アルトキハ裁判官モ其事件
ノ關係人モ共ニ此規定ノ不便ヲ感スルニ至ラン又犯人ト雖モ必スシ
モ常ニ虚偽ノ陳述ヲ爲スノ理ナケレハ現行刑法ノ如ク犯人ニ對シ證
人トナルノ能力ヲ剝奪スルハ不當ノモノナルヲ以テ改正法ニ於テハ
其規定ヲ削除スルコトト爲シタリ

(四) 現行刑法ハ犯人ニ對シ管財人トナルコトヲ禁シタレトモ之レ亦
不當ノ規定ナリト云ハサルヘカラス蓋シ元ト之レ相互ノ契約ニ因テ
成立スルモノニ外ナケレハナリ且管財人ノ如キハ自働ノ所爲ヨリハ
寧ロ他働ノ所爲ニ原因スルモノナレハ法律ノ禁止ハ犯人ニ苦痛ヲ與
ヘントシテ却テ良民ノ利益ヲ損フト一般ナルヘキヲ以テ改正法ニ於

テハ此規定ヲ廢シタリ

(五) 學校長教師學監ノ如キハ元ト其學識名譽等ニ因テ其任ニ就クモ
 ノナレハ一旦刑罰ニ處セラレタル者ナリト雖モ猶公衆ノ信用ヲ失ハ
 サルニ於テハ是等ノ職ニ從事セシムルモ決シテ不可ナカル可キヲ以
 テ改正法ニ於テハ之レ亦剝奪公權ノ結果トシテ其權ヲ失ハシメサル
 コトト爲シタリ

第八 禁錮ニ處セラレタル者ハ現任ノ官職ヲ失フノ規定ニ改
 正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニ於テハ禁錮ニ處セラレタル者ハ必ス現任ノ官職ヲ失フコ
 トト定メタリト雖モ其犯罪破廉耻ノ所爲ニ出タルト否トチ問ハス一
 般ニ此規定ヲ用ヒントスルハ不可ナリ故ニ刑法中此規定ヲ存スルヨ
 リハ寧ロ其免黜ヲ官署公署ニ一任スルヲ以テ正當ナリトス之レ改正

法ニ於テ現行刑法ノ規定ニ修正ヲ加ハタル所以ナリ

第九 監視ニ關スル規定ヲ改正シタルコト

現行刑法ハ本則中ニ監視ハ如何ナル結果ノ生ス可キモノナルヤヲ規
 定セスシテ之ヲ刑法附則中ニ讓リタルハ其當ヲ得サルモノナレハ改
 正法ハ之ヲ本則ニ定ム(改刑第三十四條)而シテ刑法附則ニ依レハ監視
 ニ關スル規定頗ル嚴密ニ過キ實際之カ爲メニ監視規則ニ違犯シ刑罰
 ニ處セララルニ至ル者多シ因テ改正法ハ被監視者ニ嚴密ナル規則ヲ
 遵守セシメサルコトト爲シタリ必竟監視ハ政府ニ於テ警察官ヲシテ
 充分本人ノ行狀等ヲ監査スルノ責任ヲ負ハシムヘキモ本人ニ對シテ
 ハ被監視中種々ノ條件ヲ遵守セシムルヲ必要トセサルモノナレハナ
 リ

又現行刑法ハ重罪ノ刑ニハ必ス監視ヲ付スヘキノ制ナリ然ルニ重罪

ヲ犯シタル者ト雖モ其罪質上再犯ノ恐ナキモノハ必スシモ之ニ監視
ヲ附加スルノ必要ナキヲ以テ改正法ニ於テハ重罪ニシテ監視ヲ附加
スル場合ハ仍ホ之ヲ各本條ニ定ムルコトト爲シタリ

第十 徴收處分ノ規定ヲ削シタルコト
徴收處分ノ規定ハ之ヲ刑法中ニ掲クルハ穩當ナラサルニ因リ之ヲ削
除シタリ

第十一 刑期計算ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト
裁判宣告前ニ受ケタル未決勾留ノ日數ヲ刑期ニ算入スルハ現行刑法
ノ規定セサル所ニシテ改正法ニ於テ始メテ設ケタル條則ナリ蓋シ未
決勾留ハ刑ニ非スト雖モ仍ホ被告人ノ自由ヲ制縛スルモノナリ而シ
テ裁判宣告前被告人ノ自由ヲ制縛スルハ犯罪ノ取調ヲ爲スニ必要ナ
リトハ言ヘ固ト正當ノモノト言フヲ得ス然ルニ其日數ヲ全ク刑期ニ

算入セスシテ除去スルハ苛酷ニ過キタルヤノ嫌アリ故ニ改正法ハ被
告人ノ利益ノ爲メニ此通算法ヲ設定シタルナリ

第十二 假出獄ニ關スル規定ヲ寛ニシタルコト
現行刑法ニ依レハ假出獄ヲ許サレタル者出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シ
タルトキハ當ニ出獄ヲ停止スルノミナラス以前ニ溯テ出獄中ノ日數
ヲ刑期ニ算入セサルコトト爲シタリ此規則タル頗ル嚴酷ノモノナル
ヲ以テ改正法ハ其出獄中重罪又ハ禁錮ニ該ル有意ノ輕罪ヲ犯シタル
トキト雖モ仍ホ其出獄ヲ止ムヘキヤ否ヲ行政處分ニ委ネ出獄中ノ日
數ハ之ヲ刑期ニ算入スルコトト定メタリ
又現行刑法ニ刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス
トアル規定ハ實ニ假出獄設定ノ目的ニ反スルモノナリトス蓋シ假出
獄ノ制ヲ設ケタルハ犯人ヲシテ前非ヲ悔悟シ速カニ改悛ノ途ニ就カ

シメントノ旨趣ニ基キタルモノナレハナリ故ニ改正法ニ於テハ現行
刑法第五十七條ヲ削除セリ

第十三 逮捕令狀ニ因リ時効ノ中斷ヲ爲スコトヲ廢止シタル
コト

現行刑法ハ刑ノ執行ヲ遅レタル者ニ對シ逮捕ノ令狀ヲ發シタル最終
ノ日ヨリ期滿免除ヲ起算スト爲シタルハ適當ノ規定ニアラス蓋シ官
府内ノ手續ヲ爲シタルノミニテハ社會ヲシテ犯罪ノ遺忘ヲ喚起スル
ニ足ラサレハナリ故ニ改正法ニ於テハ受刑者ノ逮捕ニ因テ時効ヲ中
斷スルコトト定メタリ

第十四 加重ノ爲メ無期徒刑ノ宣告ヲ爲スヲ得サルノ規定ヲ設
ケタルコト

現行刑法ハ加重ノ爲メニ死刑ニ入ルコトヲ得サルノ規定アルノミ改

正法ハ尙ホ加重ニ因リ無期徒刑ヲモ宣告スルコトヲ得スト爲シタルハ
他ナシ無期徒刑ハ受刑者ノ生命ヲ終ル迄執行ス可キモノナレハ死刑ト
徑庭スル所少ケレハナリ

第十五 禁錮罰金ノ加減例ヲ變更シタルコト

現行刑法ハ禁錮罰金ヲ加減スルニ通加通減ノ計算方ヲ用ヒタルニ因
リ若シ四等ヲ減スルトキハ其刑ヲ減盡シ又四等ヲ加フルトキハ原刑
ノ倍數ニ達シ其加減ノ度甚タ急激ニ過キ刑ノ權衡ヲ失スルノ恐アル
ヲ以テ改正法ニ於テハ其加減ノ計算方ヲ遞加遞減ト爲シ以テ刑ノ加
減ヲ適當ナラシメタリ

第十六 加減順序ノ規定ヲ廢シ加減相殺ノ法ヲ設ケタルコト
現行刑法第九十九條ニ加重減輕ノ順序ヲ定メタリ然ルニ減輕ニ付テ
ハ宥恕ハ自首ニ先チ自首ハ酌量ニ先ツモノト爲シタリト雖モ實際何

○説明書○第十三第十四第十五第十六

レテ先ニシ後ニスルモ結果ノ異ナル所ナシ故ニ故テニ是等ノ順序ヲ設クルハ必要ナラスト又同條但書ノ場合ハ因テ以テ必スシモ罪ノ本質ヲ變スルモノニアラス然ルニ一般ニ其加減シタルモノヲ本刑ト爲スト定メタルハ之亦タ適當ノ規定ニアラスト故ニ改正法ハ其不必要ニシテ且不適當ナル規定ヲ廢シ單ニ加重減輕ノ原因共ニ發スルトキハ相殺スルノ簡便法ヲ設ケタリ

第十七 正當防衛ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト
現行刑法ニ依レハ正當防衛ハ殺傷ニ關スル特別ノ不論罪トシテ之ヲ第三編中ニ規定シタリ凡ソ正當防衛ノ爲メニ罪トナルヘキ所爲ヲ行フハ殺傷ノ場合ニ於テ最モ多シト雖モ亦タ之カ爲メニ人ヲ制縛スルコトアリ監禁スルコトアリ其他財産ヲ毀壞スルコトアリ而シテ此何レノ場合ニ於テモ之ヲ罪トシテ論ス可カラサルハ當然ナリトス故ニ

改正法ハ正當防衛ノ規定ヲ總則中ニ設ケ一般ノ場合ニ適用スルコトト爲シタリ

第十八 刑事ノ責任ヲ異ニスル年齢ニ改正ヲ加ヘタルコト
現行刑法第七十九條ニ罪ヲ犯ストキ十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セストアリ之ヲ實際ニ徵スルニ幼者年齢十歳以上ニ達スルトキハ概ネ所爲ノ善惡ヲ辨別スルノ傾向アルヲ以テ改正法ハ之ヲ十歳未滿ト修正シタリ又其第八十條ニ十二歳以上十六歳ニ滿サル者トアルヲ滿十歳以上十五歳ニ滿サル者ト改正シタルモ亦前述ノ理由ニ外ナキナリ

第十九 懲治場留置ヲ解クノ規定ヲ設ケタルコト
現行刑法ハ刑罰ニ付テハ假出獄ノ規定アリト雖モ懲治場留置ニ付テハ之ヲ解放スルノ規定ナキヲ以テ懲治場留置ノ言渡ヲ受ケタル者感化ノ効ニ因リ改悛ノ狀ヲ現スト雖モ仍ホ其期限間留置ヲ解クコトヲ

得サルノ不便アリ故ニ改正法ニ於テハ此不備ヲ補ヒタリ

第二十 自首減輕ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ノ規定ニ依レハ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ直ニ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタルトキト單ニ自首ノミヲ爲シ被害者ノ請求ニ因リ贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタルトキトハ大ニ減輕ノ度ヲ異ニシ其第一ノ場合ニ於テハ犯人本刑ニ二等若クハ三等ヲ減セラレ第二ノ場合ニ於テハ本刑ニ一等ヲ減セラルルノミ犯人刑ヲ受クルニ當テハ此ノ如ク差異アリト雖モ被害者ニ於テハ其何レノ場合ニ於テモ既ニ贓物ヲ取還シ損害ノ賠償ヲ受ケタル上ハ何等ノ損害モ之ナカル可シ要スルニ是等私益上ノ事ニ由リ刑罰ニ影響ヲ波及セシムルハ不當ノ規定ナルヲ以テ改正法ハ之ヲ廢シタリ

第二十一 再犯加重ヲ一般ノ犯罪ニ及ホスノ規定ヲ廢シタル

コト

現行刑法ニハ罪ノ性質如何ニ拘ハラヌ先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ルトキ又先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ルトキ又ハ先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該リ法定ノ條件ヲ具備シタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フルコトト定メタリ必竟再犯加重ハ犯人ヲシテ懲罰ノ實アラシメノカ爲メニ設ケタルニ外ナシト雖モ現行刑法ノ如ク罪ノ種類ヲ問ハス再犯ノ刑ヲ加重スルニ至テハ之ヲ設ケタルノ旨趣ニ背戾スルモノナリトス即チ初メ過失ノ罪ニ處セラレタル者再犯有意ノ犯罪若クハ過失ノ罪ニ該ル者ニ對シ其再犯ノ刑ヲ加重スルハ實ニ法理上當テ得サルノミナラス實際ニ必要ナキニ徒ラニ刑ヲ重クスルモノト云ハサルヘカラス故ニ改正法ニ於テハ一般ノ罪ニ再犯加重ヲ爲スコトヲ廢シ或犯罪ノミニ限リ

再犯加重ノ制ヲ用ヒ其他ハ刑罰ノ範圍ヲ擴張シ裁判官ヲシテ其範圍内ニ就テ犯人ノ情狀ニ因リ適宜ノ處分ヲ爲サシムルコトト爲シタリ

第二十二 數罪俱發ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニ依レハ數罪一時ニ發スルトキハ一ノ重キニ從テ處斷シ他ノ罪ハ之ヲ論セサルヲ以テ若シ其刑大赦特赦等ニ因リ消滅スルトキハ其他ノ輕キ罪ハ總テ之ヲ執行スルヲ得サルナリ左レハトテ此弊ヲ防カンカ爲メ數罪ノ刑ヲ盡ク執行スルハ酷ニ過クヘシ故ニ改正法ニ於テハ裁判宣告書ニ各罪ノ刑ヲ定メ之ヲ執行スルニ當リ概テ唯一ノ重キ刑ヲ執行スルコトト爲シタリ

又現行刑法ニ依レハ前條ノ罪ヲ判決スルトキ未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタルトキハ一般數罪俱發ノ例ニ依リ處分スルコトト爲シタリ而シテ此規定タル大ニ不權衡ノ結果ヲ惹起スニ至ルヘシ例

へハ二箇ノ有期徒刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シ其一罪先ニ發シ後禁錮ニ該ル罪ヲ犯シ其罪有期徒刑ニ該ル可キ餘罪ト俱ニ發スルトキハ一ノ重キ有期徒刑ニ處セラルヘシ然ルニ若シ其有期徒刑ニ該ル可キ罪先ニ發シタルトキハ犯人ハ再犯ノ罪即チ單ニ禁錮ノ刑ニ處セラルルモノナリ故ニ此規定タル恰モ犯人ヲシテ先ニ處斷ヲ經ルトキニ當リ自ラ他ノ有期徒刑ニ該ル罪ヲ犯シタルコトヲ自白セサリシテ責ムルト一般ニシテ道理上最モ不當ナルモノトス前例ニ反シ重懲役ト禁錮ニ該ル罪ヲ犯シ禁錮ノ罪先ツ發覺シ餘罪再犯ニ係ル有期徒刑ニ該ル可キ罪ト發覺スルトキハ犯人ハ故ナク重懲役ノ刑ヲ免ルルト一般ニシテ之亦タ不當ノ規定ニ原因スル結果ニ外ナシ改正法ハ即チ第九十三條ニ於テ現行刑法ノ缺點ヲ補ヒ此ノ如キ不權衡ノ結果ヲ生セサラシメタリ

第二十三 名例ヲ設ケタルコト

現行刑法ニハ名例中唯親屬例ノ一ヲ示シタルノミ其他法文中ニ用ヒタル名稱ノ定義ヲ示ササルヲ以テ實際疑團ヲ生スルノ場合尠少ナラストス例ハ門戶竊壁ヲ踰越シ若クハ鎖鑰ヲ開クト云フカ如キ其字義ノミニ拘泥スルトキハ意義狹隘ナルニ因リ重ク罰ス可キ罪ヲ輕ク罰スルカ如キ結果ヲ生シ又兇器トハ如何ナル物件マテテ包含スルモノナルカ又年齢ヲ計算スルニ一歳ト稱スルハ幾許ノ時日ヲ經タルモノヲ云フカノ如キ之ナリ而シテ現行刑法中ニハ其定義ヲ示ササルヲ以テ之カ爲メニ實際ノ處分區々ニ出テ公平ヲ失スルコト往々之レアルナリ之レ改正法ニ於テ名例ヲ設定スルノ必要アリタル所以ナリトス

第二十四 皇室ニ對スル犯罪ノ未遂犯及ヒ豫備陰謀ニ付キ其刑ニ差等ヲ設ケタルコト

現行刑法第百十六條ニ天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ危害ヲ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ストアリ其加ヘントシタルト云ヘル字義ハ危害ヲ加フルノ未遂犯ヲ指シタルモノナルカ又ハ其豫備陰謀ヲモ包含セシメタルモノナルカ明瞭ナラス固ヨリ臣民ニシテ斯ノ如キ大罪ヲ犯スカ如キ者萬之レナカルヘキヲ保スト雖モ既ニ法律ニ此規定ヲ爲ス以上ハ其意義ヲ曖昧模稜ニ付スルハ不當ナリトス果シテ然ラハ同條ニ所謂加ヘントシタルト言ヘル文字ハ未遂犯ノミヲ指シタルモノトセンカ其豫備陰謀ノ所爲ハ之ヲ不問ニ措カサルヘカラス若シ其豫備陰謀ヲモ包含シタルモノト爲ストキハ其刑嚴酷ニ過シルヤノ感アリ因テ改正法ニ於テハ未遂犯ト豫備陰謀トヲ區別シテ相當ノ刑罰ヲ科スルコトトセリ

(改刑第百十八條 同第百二十條)

第二十五 内亂ニ關スル罪ヲ二種ニ區別シ且此罪ニ關スル現

〇說明書〇第二十三第二十四第二十五

行刑法ノ不備ヲ補ヒタルコト

内亂ニ關スル罪ハ其兵ヲ擧ケ政府ニ抗敵スルノ點ニ至テハ何レノ場合ニ於テモ同一ナリト雖モ其目的トスル所ハ自ラ差異アリ一ハ帝國ノ基本ヲ侵害セントスルニ在リ又一ハ政府ノ當路者ト政治上ノ意見ヲ異ニスル所ヨリ其政治ツ方針ヲ變更セントスルニ在リ而シテ第一ノ場合ハ第二ノ場合ニ比スレハ罪狀ノ重キハ言ヲ俟タサル所ナリ然ルニ現行刑法ハ此區別ヲ爲サスシテ一樣ニ刑ヲ定メタルハ刑罰ノ權衡ヲ失シ不當ノ規定タルヲ免レス故ニ改正法ハ其區別ヲ明カニシ又各自相當ノ刑罰ヲ科スルコトト爲シタリ

又現行法ハ現ニ其暴動ニ加ハリタル者ノ刑ヲ定ムルニ止マリ之ニ與セスシテ止タ暴動者ニ幫助ヲ爲シタル者ノ刑ヲ定メス故ニ官兵ノ機密ヲ暴動者ニ漏泄シタル者ヲ罰スルコトヲ得サルカ如キ不都合アル

ヲ以テ改正法ニ於テハ之ヲ補修セリ **(改刑第百二十四條)**

第二十六 外患ニ關スル犯罪ノ刑ヲ改メ且現行刑法ノ不備ヲ補ヒタルコト

現行刑法ハ外患ニ關スル罪ヲ以テ政治ニ關スル犯罪ト見做シ其死刑ニ該ラサル者ニ對シテハ無役ノ刑ヲ科スルコトトセリ然ルニ此罪タル敵國ヲ助ケ我帝國ヲ亡滅セシメントスル奸惡ノ犯罪ニシテ内亂罪トハ同日ノ論ニ非サルナリ時トシテハ政治上ニ付キ此罪ヲ犯ス者萬一ニナキニシモアラスト雖モ其犯人ノ目的ニシテ之ヲ遂ケ得タリト假定セシカ我帝國ヲシテ獨立ヲ失ハシメ敵國ノ附庸地ト爲サシムルニ至ラン何レノ點ヨリ觀ルモ此罪ヲ犯ス者ハ廉耻ヲ重クセサル賣國ノ奴輩ニ過キス故ニ改正法ニ於テハ是等ノ罪ヲ犯ス者死刑ニ該ラサルトキハ有役ノ刑ヲ科スルコトト定メタリ

○説明書○第二十六

又現行刑法ニハ都府城砦ヲ敵國ニ交付スルノ規定アリト雖モ之ヲ毀壞又ハ使用スルコト能ハサラシメタル場合ヲ規定セス然レトモ彼此共ニ帝國又ハ同盟國ノ爲メニ害ヲ及ホスヘキ所爲ニシテ一ハ之ヲ罰シ一ハ之ヲ不問ニ付スルノ理ナカル可シ故ニ改正法ハ此不備ノ點ヲ補ヘリ(改刑第百三十五條)

又敵國ノ間諜ト爲テ未タ機密ヲ敵國ニ漏泄セサル者或ハ日本官署ヨリ發シタル公信ヲ携帯スル者ノ往來ヲ妨クル者等ノ罪ヲ定メサルヲ以テ改正法ハ之ヲ補ヘリ(改刑第百三十八條)又平時ト雖モ我軍事又ハ政事ニ關スル秘密ヲ外國ニ漏泄スル者ハ爲メニ我國ニ對シ大害ヲ惹起ス可キコトアルヲ以テ改正法ハ之ヲ處罰スルコト、シ現行刑法ノ缺點ヲ補ヒタリ(改刑第百四十三條)

第二十七 國際ニ關スル罪ヲ設ケタルコト

現行刑法ニハ國際ニ關スル罪ニ付キ規定スル所ハ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開クト局外中立ノ布告ニ違背スルトノ二點ニ過キス然ルコト今ヤ國際日々ニ親密ヲ加フル際或ハ外國ノ構和ヲ敗ル可キ敵對ノ所爲ヲ行フ者アルカ又ハ日本駐劄ノ外國使臣ノ職務ニ對シ侮辱ヲ爲ス者アルカ皆之カ爲メニ國際ノ途ヲ梗塞スヘキ結果ヲ生スルノ恐アルモノナリ故ニ改正法ニ於テハ是等ノ罪ヲ規定シ現行刑法ノ不備ヲ補ヒタリ

第二十八 官吏侮辱罪ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法第百四十一條ニ依レハ官吏ノ目前ニ非サル侮辱ニ付テハ刊行ノ文書圖畫ヲ以テ侮辱シタル者ヲ罪トシテ處分シ其刊行ニ非サルモノハ之ヲ不問ニ措キタルカ如シ而シテ誹毀罪ニ付テハ刊行ノ文書圖畫ニ限ラサルカ如ク規定セリ其レ此ノ如ク官吏侮辱ノ罪ノミ刊行

○說明書○第二十七第二十八

ノ文書圖書ヲ要スト規定シタルハ全ク現行刑法ノ缺點ニシテ其間ニ
 罪ノ有無ヲ區別ス可キ理ナキヤ明ナリ故ニ改正法ハ之ヲ補修セリ(改
 第百五)又官吏公吏等ニ對シテ其職務上不法ノ事アリトシテ指摘シタ
 十六條)又官吏公吏等ニ對シテ其職務上不法ノ事アリトシテ指摘シタ
 ル場合ニ於テ果シテ其事實アリトセハ之ヲ世上ニ發表シ公衆ノ注意
 ナ惹クハ當然ノコトニシテ固ヨリ罪トシテ論スヘキモノニアラス故
 ニ此場合ニ於テハ新聞紙條例ニ於ルカ如ク事實ノ證明ヲ許シ其證明
 ナ爲シ得サルトキ始メテ之ヲ侮辱罪トシテ處分スルヲ當然ナリトス
 之レ改正法ニ於テ新ニ此規定ヲ設ケタル所以ナリトス(改刑第百
 五十七條)
 又侮辱ノ罪タル管ニ官吏公吏議員其人ニ對スルノミナラス官署公署
 又ハ議會ニ對シテモ亦之アル可キヲ以テ改正法ハ此場合ヲ規定ス
 ルコトト爲シタリ(改刑第百
 五十八條)

第二十九 官吏公吏ノ管守スル文書ヲ竊取毀壞スル罪ニ付キ

一節ヲ設ケタルコト

現行刑法ニ於テハ官文書毀棄ノ罪ヲ官文書偽造ノ罪ヲ規定シタル節
 目中ニ掲ケタルモ其罪ノ性質ハ信用ヲ害スルモノニアラサレハ官文
 書偽造ノ罪ト同節中ニ規定スヘカラサルナリ且現行刑法ハ官吏ノ監
 守スル文書ノ性質如何ヲ示ササルノミナラス亦如何ナル意思ヲ以
 テ罪ヲ犯シタルヤヲ明ニセズ必竟此罪ノ性質ハ官ニ抗スルノ點ニ在
 ルヲ以テ改正法ハ特ニ茲ニ一節ヲ設ケテ以テ其監守ニ係ル文書ノ性
 質如何ニ因テ罪ノ輕重ヲ區別シ其他現行刑法ノ不備ヲ補ヒタル點勘
 ナカラス

第三十 偽證罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

抑モ偽證ノ罪ハ主トシテ裁判所ヲ錯誤ニ陥ラシメントスル所爲ヲ處
 罰スルノ精神ニ出タルモノナレハ裁判所ニ於テ苟モ其陳述シタル事

○說明書○第二十九第三十

ノ不實ニ出タル以上ハ總テ之ヲ處罰セサル可カラズ然ルニ現行刑法ハ被告人ヲ曲庇スル爲メ又ハ之ヲ陷害スル爲メ事實ヲ掩蔽シタル所爲ノミチ處罰スルコトト爲シタルハ正當ナラサルナリ又現行刑法ハ重罪輕罪違警罪ヲ曲庇スル爲メ若クハ陷害スル爲メ云々ト規定シタリト雖モ其重罪輕罪違警罪タルコトハ到底訴訟ノ終局ヲ告クルニ非サレハ之ヲ知ルコトヲ得サルモノナレハ此ノ如ク規定スルハ亦不可ナリトス故ニ改正法ニ於テハ總テ此等ノ缺點ヲ補ヒタリ(改刑第百六十六條)又現行刑法ニ所謂反坐ノ刑トハ實ニ往古刑罰ノ復讎主義ニ基キタル時代ノ遺物ニシテ當時猶ホ之ヲ保存スルハ正當ナラス而シテ此處罰ノ方法タル常ニ奇怪ノ結果ヲ生スルモノナリ例ヘハ被告人偽證ノ爲メニ三年ノ無役禁錮ニ處セラレタリト假定セシニ偽證者ハ其反坐ノ爲メ却テ定役ヲ免ル、ニ至ルカ如キ是レナリ故ニ改正法ニ於テハ此

反坐ノ刑ヲ廢シ特ニ偽證者ヲ處罰スルノ刑ヲ定メタリ(現刑第二百一十八條同第百六十九條)

又現行刑法ハ事實參考人虛偽ノ陳述ヲ爲シタル罪ヲ定メス固ヨリ之ヲ偽證罪ニ比スレハ其情狀ニ於テ輕重ノ差アリト雖モ裁判所ヲシテ錯誤ニ陥ラシメントスルノ點ニ至テハ彼此相異ナル所ナカル可シ故ニ其所爲ヲ全ク不問ニ付スルハ危險ナルヲ以テ改正法ニ於テハ之ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタリ(改刑第百七十二條)又自己ノ訴追セラルルコトヲ恐レ又ハ親屬ノ利益トナル可キ爲メニ虛偽ノ陳述ヲ爲スハ普通ノ人情ニシテ之ヲ處罰スルニ忍ヒサル所アリ故ニ之カ爲メニ他人ノ害トナル可キ虛偽ノ陳述ヲ爲ササル以上ハ其罪ヲ宥恕シ本刑ヲ免スルヲ以テ至當ナリトス反之子孫其父母祖父母ニ對シテ其害トナル可キ虛偽ノ陳述ヲ爲ス者ノ如キハ當ニ裁判所

ナシテ錯誤ニ陥ラシムルノミニ止マラス其所爲尤モ惡ム可キモノナ
レハ此場合ニ於テハ通常ノ刑ヨリ重ク處罰セサル可カラズ而シテ現
行刑法ハ以上ノ場合ヲ規定セサルニ因リ改正法ニ於テ其缺點ヲ補ヒ
タリ
(改刑第百七十三條)

第三十一 辯護士瀆職ノ罪ヲ設ケタルコト

民事ノ辯護士其對手人若クハ對手人ノ辯護士ト相通謀シテ依頼者ヲ
害ス可キ所爲ヲ行ヒ若クハ對手人ヲ曲庇シ或ハ刑事ノ辯護人惡意ヲ
以テ被告人ヲ害ス可キ所爲ヲ行フ者ノ如キハ其職務ノ本分ニ背キ廉
耻ヲ破リ爲メニ社會ニ害毒ヲ流布スルコト重大ナルヲ以テ單ニ普通
ノ懲戒ヲ加フルノミニテハ未タ充分ナラス之レ改正法ハ特ニ茲ニ其
罪ノ爲メニ一節ヲ設ケタル所以ナリトス

第三十二 公務ヲ行フテ拒ム罪ノ中第百七十七條ヲ削除シタ

ルコト

公務ヲ行フテ妨害スル罪ヲ定メタル節目中ニハ總テ裁判事務ニ對シ
妨害ヲ與ヘタル所爲ヲ規定スルヲ本則トス即チ現行刑法第百七十七
條ノ如キハ茲ニ之ヲ掲クルノ理由之ナキモノナリ夫レ陸海軍ノ將校
タル者故ナク出兵ヲ拒ミタル場合ニ於テハ其將校ニシテ暴動者ト通
謀シテ犯シタルトキハ其共犯ヲ以テ處分スルコトヲ得ヘシ固ヨリ本
條ハ其通謀ヲ爲サ、ル場合ヲ想像シテ設ケタルモノニ相違ナカル可
シト雖モ此所爲タル陸海軍ノ將校タル者兵力ヲ指揮スル點ニ付キ起
生ス可キコトナレハ敢テ普通刑法ノ處分スルモノニアラサル可シ若
シ實際之ヲ罰ス可キ必要アリトセハ陸海軍刑法ノ在ル有リ故ニ改正
法ハ本條ヲ以テ無用ノ規定ナリトシ之ヲ削除シタリ

第三十三 囚徒逃走ノ罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

○說明書○第三十一第三十二第三十三

現行刑法ハ囚徒獄舎獄具等ヲ毀壞セス又暴行脅迫ヲ爲サス單ニ逃走
 ナ爲シタル者ヲ罪ト爲スト雖モ凡ソ自由ヲ欲シ痛苦ヲ道レントスル
 ハ人性ノ常ナレハ之ヲ罪トシテ論スルハ道理ノ許サ、ル所ナリ必竟
 囚徒ノ逃走ハ獄舎獄具ノ不完全若クハ看守者ノ不注意ニ職由スルニ
 外ナケレハ其責反テ官ニ在リト言ハサル可カラズ其罪ヲ囚徒ニ歸ス
 ルハ當テ得タルモノニアラサルナリ故ニ改正法ハ囚徒單純ノ逃走ヲ
 罰セサルコト、爲シタリ(現刑第百四十二條)

第三十四 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行フ
 ノ罪ヲ廢シタルコト

公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行フトキハ法律上其
 所爲ヲ以テ無効ト爲ス可キハ當然ナリト雖モ之ヲ以テ一箇ノ犯罪ト
 爲スハ不可思議ノ事ナリトス即チ公權ヲ行フコトヲ禁セラレタル者

官吏公吏ト爲リ若クハ勳章位記ヲ受クルヲ以テ罪ヲ犯シタリト爲ス
 ハ恰モ其當時ニ在テ人ヲシテ自身ノ舊惡ヲ暴露シテ之ヲ辭セサルヲ
 責ムルト一般ニシテ普通ノ感情ニ照シテ忍ヒサル所ナリ又况ンヤ此
 權ヲ行ハシムルニ至リタルハ必竟推撰者ノ過失ニ出タルモノナルニ
 於テチヤ若シ此場合ニ本人其氏名ヲ詐テ私ニ其權ヲ行ヒタリトセン
 カ別ニ此所爲ヲ罰スル明文ノ在ル有リ敢テ不都合ヲ感セサルナリ蓋
 シ前顯ノ所爲ヲ以テ罪ト爲スハ道理上又實際上ニ於テ共ニ許ササル
 所ナリトス之レ改正法ノ此規定ヲ廢シタル所以ナリトス

第三十五 官吏公益ニ關スル罪ノ規定ヲ廢シタルコト

現行刑法第二百七十三條ニ官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セ
 ス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタルモノヲ罰スルコトト爲セリ
 蓋シ此規定ハ往時法律規則ノ發布アリタル際地方ノ官吏之ヲ揭示シ

テ以テ人民ニ知ラシムルノ責アリタルトキニ在テハ之ヲ設クルノ必要アリタリト雖モ現今ニ於テハ法律規則ハ之ヲ官報等ニ揭示スルヲ以テ公布ノ式ト爲スニ至リタレハ今日此ノ如キ罪ヲ犯ス者之ナキ理ナリ從テ其規定ヲ依然存在セシムルノ必要ナキヲ以テ改正法ハ之ヲ廢シタリ

又現行刑法第二百七十四條ニ兵隊ヲ要求スル權アル官吏其要求ヲ爲ササル等ノ罪ヲ規定スト雖モ其所爲ニシテ若シ暴動者ト通謀スルニ出タルトキハ其共犯トシテ論ス可ク其否ヲサル者ハ懲戒處分ヲ加フルヲ以テ足レリトス又時トシテハ暴動者ノ勢ヲ激セサラシムル爲メ却テ兵力ヲ要求セサル場合ナシトセス故ニ此ノ如キ所爲ヲ以テ官吏公益ニ關スル罪トシテ茲ニ之ヲ處罰セントスルハ不當ナリトス之レ改正法ニ於テ此規定ヲ廢シタル所以ナリトス

又官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ヲ罰スルノ規定ヲ現行刑法ニ於テ設定シタリト雖モ是等ノ所爲ハ寧ロ懲戒處分ニ委ヌルヲ正當トス故ニ改正法ハ亦タ此規定ヲ廢シタリ

第三十六 官吏公吏人ノ家宅ニ侵入シ又ハ信書ノ秘密ヲ侵ス
ノ罪ヲ設ケタルコト

人ノ家宅及ヒ信書ノ秘密ノ侵ス可カラサルハ憲法ノ規定スル所ナリ然ルニ現行刑法ニ於テハ官吏公吏之ヲ犯スノ罪ヲ規定セサルヲ以テ或ハ通常人ニ付キ定メタル家宅侵入ノ罪ニ依リ又ハ時トシテハ郵便條例(第二百三十四條)ニ依テ處斷スルノ外他ニ途之ナカル可シ然ルニ人民相互ニ家宅ニ侵入スルト官吏ノ家宅ニ侵入スルトハ其間自ラ罪質ノ異ナル所アルナリ即チ官吏公吏ニ付テハ法律ニ定メタル程式條件ヲ遵守セズ職權ヲ濫用シタルトキニ於テ之ヲ處罰ス可シ又信書ノ

秘密ヲ侵スハ郵便物ノ開封ニ限ラサルヲ以テ官吏公吏ノ不法ニ其秘密ヲ侵シタル場合ヲ規定シ之ヲ罪トシ處罰セサル可カラズ又官吏公吏人ノ身體財産ニ關シ搜索ヲ爲スニ當リ法定ノ程式條件ヲ遵守セサル場合ノ如キ之亦々現行刑法ノ規定セサル所ナリト雖モ此所爲タル官吏公吏等其職權ヲ濫用シテ人ノ權利ヲ害シタルモノナレハ特ニ其罪ヲ規定セサル可カラズ故ニ改正法ニ於テハ前上ノ場合ヲ盡ク官吏公吏人民ニ對スル罪ノ中ニ規定シテ以テ現行刑法ノ缺點ヲ補ヒタリ

(改刑九十三條同第百九十四條)

第三十七

身體財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ豫審判事檢事

警察官吏保護ヲ爲ササル罪ノ規定ヲ廢シタルコト

現行刑法ハ豫審判事檢事警察官吏身體財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ保護ノ處分ヲ爲ササルヲ以テ一ノ罪ト爲シヨリト雖モ其所謂保護

ノ處分トハ果シテ如何ナル事ヲ指示シタルモノナルヤ疑訝ニ堪ヘサルナリ即チ犯人ヲ逮捕スルヲ以テ保護ノ處分ナリトセシカ其現場ニ於テ將ニ死セントスル被害者ヲ看護セントシテ犯人ヲ逮捕セサルトキハ其所爲罪ト爲ル可シ又之ヲ以テ被害者ニ對スル保護ノ處分ナリトセシカ即チ前上ノ場合ニ於テ現場ニ在ル犯人ヲ逮捕セントシテ其被害者ヲ看護セサル所爲直チニ罪ト爲ルナリ又豫審判事ノ如キハ豫審處分ヲ行フヲ以テ其職務ト爲シ人民保護ノ職ニ在ル者ニ非ス然ラハ則チ現行刑法ノ規定ハ那點ヨリ觀ルモ正當ノ規定ナリト言フヘカラス因テ改正法ニ於テハ此規定ヲ廢シ警察官吏不法ノ監禁アルコトヲ知テ之ヲ檢査セズ又之ヲ檢査スト雖モ之ヲ停止セシメス若クハ管轄官吏ニ報告セサル者ハ之ヲ罪トシ處罰スルコトト爲シタリ(改刑第九十條七)

第三十八

賄賂贈與ヲ提供シ因テ官吏公吏等ヲシテ不正ノ所
爲ヲ行ハシメタル者ノ罪ヲ定メタルコト

現行刑法ハ官吏賄賂ヲ收受聽許シテ不正ノ所爲ヲ行ヒタル者ノ罪ヲ
定メタリト雖モ其贈與提供ヲ爲シタル者ニ付テハ何等ノ規定ヲ爲サ
ズ固ヨリ賄賂ヲ贈與提供スト雖モ之カ爲メ官吏公吏等不正ノ所爲ヲ
行ハサルトキハ實害ノ生ス可キコトナキヲ以テ之ヲ不問ニ付スルハ
可ナリ然レトモ官吏公吏等果シテ不正ノ所爲ヲ行ヒタルトキハ其贈
賄者ハ之ヲ教唆者ト同一視セサル可カラズ現行刑法ノ如ク全ク之ヲ
不問ニ付シ去ルハ穩當ノ規定ニアラサルナリ故ニ改正法ハ之ニ官吏
公吏等ト同一ノ刑ヲ科スルコトト爲シタリ

(改刑第二)
百五條

第三十九

官吏公吏官有公有財産ニ關スル事務ヲ行フニ當リ
不正ノ利益ヲ得ル罪ヲ定メタルコト

官吏公吏其職務ヲ以テ契約又ハ糶賣ヲ爲スニ當リ其關係人等ト通謀
シテ私利ヲ貪ルノ弊實際之ナシトセス而シテ現行刑法ハ特ニ是等ニ
關スル規定ナケレハトテ之レヲ官吏公吏其監守中ノ金穀物件ヲ竊取
スル者ト同ク論スルハ不當ナリトス故ニ已ムヲ得ス之ヲ不問ニ付セ
サル可カラサルニ至ル可シ之レ改正法ニ於テハ特ニ其罪ヲ設ケタル
所以ナリ

(改刑第二)
百九條

第四十

各官署ノ印ヲ偽造スル罪ヲ廢止シタルコト

現行刑法ハ各官署ノ印ヲ偽造シタル者ヲ處罰スト雖モ凡ソ印願ハ之
ヲ偽造スルモ文書ニ押用スルニ非サレハ何等ノ害ヲ生セス犯者ノ意
思亦タ管ニ其印願ヲ偽造スルニ止ラス主トシテ之ヲ文書ニ押用セン
トスルニ在ルヤ必セリ蓋シ印願ヲ偽造スルハ文書偽造ノ豫備トシテ
行フタル所爲ニ過キサレハナリ故ニ若シ其偽印ヲ文書ニ押用スルニ

○説明書○第三十八第三十九第四十

至テノカ文書偽造ノ罪ニ依テ之ヲ處罰スルコトヲ得ヘシ別ニ其豫備ノ手段タル可キ印願偽造ノ所爲ヲ問フノ必要ヲ見サルナリ之ヲ以テ改正法ニ於テハ印願偽造ニ止ル所爲ハ之ヲ罪トセサルコトト爲シタリ然レトモ御璽國璽ハ其性質貴重無比ノ物ニシテ到底他ノ官印ト同視ス可キモノニ非サレハ御璽國璽ニ關スル犯罪ハ現行刑法ノ規定ニ聊カ修正ヲ加ヘテ之ヲ保存シタリ

第四十一 郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手等ノ偽造ヲ罪トシタルコト

現行刑法ハ本邦ノ郵便切手ヲ偽造シタル者ノ罪ヲ定メタルノミ然ルニ輒近外國ト郵便聯合條約ヲ締結シ而シテ其條約ヲ結ヒタル各國ニ在テハ既ニ此條約ニ依テ外國政府ノ發行スル郵便切手封皮等ヲ偽造シタル者ヲ處罰スルノ規則ヲ設ケタルヲ以テ本邦ニ於テモ特ニ此罪

ヲ定メテ彼我ノ規定ニ付キ權衡ヲ得セシメサル可カラズ即チ改正法ニ於テハ是等ニ關スル罪ニ付キ條則ヲ設定シタリ(改刑第二百二十四條)

第四十二 文書偽造罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ官文書偽造ノ罪ト私文書偽造ノ罪トニ付キ二節ヲ設ケタリト雖モ凡ソ偽造ノ罪ハ文書ノ性質種類如何ニ因リ罪ノ輕重ヲ異ニス可キモ官ノ文書タルト私ノ文書タルトニ因テ罪ノ度ヲ異ニス可キ理ナシ故ニ改正法ニ於テハ其區別ヲ廢セリ又現行刑法ニハ單ニ官ノ文書トノミアルヲ以テ其文書トハ如何ナル種類ノモノヲ指示シタルヤ明瞭ナラス從テ從來往々其罰ス可カラサルモノヲ罰スルコトアルニ至レリ故ニ改正法ニ於テハ文書偽造ノ罪ニ關シ其重ク罰ス可キ必要アル文書ハ特ニ其種類ヲ明示シ其他ノ文書ニシテ公私ノ利益ヲ害ス可キモノハ其刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判官ヲシテ犯罪相當ノ刑期金額

ナ科セシムルコトト爲シタリ又現行刑法ニ官吏ニ對シテ詐僞ノ申告
 ナ爲シテ文書ヲ作り又ハ増減變換セシメタル者ヲ處罰スルノ規定ナ
 キハ一大缺點ナリトス蓋シ此ノ如キ所爲ハ自ラ其文書ヲ偽造變造ス
 ルト其所爲及其害ヲ生ス可キノ點ニ於テ大差ナカル可ケレハナリ論
 者或ハ此所爲ヲ以テ直チニ官文書偽造ノ罪ナリトスル者之アレトモ
 到底牽強附會ノ說タルヲ免レス之レ改正法ニ於テハ特ニ此場合ヲ規
 定スルコトト爲シタル所以ナリ (改刑第二百二十六條同第二百
 二十七條同第二百二十九條)
 又現行刑法ニ於テハ官私ノ文書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ヲ罰ス
 ルニ止マリ其偽造變造ニ止マル者又ハ其偽造變造ニ與セス止マ其情
 ナ知テ之ヲ使用シタル者ヲ處罰スルノ明文ナシト雖モ此所爲タル亦
 タ害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキモノナレハ之ヲ不問ニ措ク可キモノニア
 ラサルナリ故ニ改正法ニ於テハ此ノ如キ所爲ヲ處罰スルノ條則ヲ設

ケタリ (改刑第二百
 三十一條)

第四十三 暴動ノ罪ヲ設ケ兇徒聚衆ノ罪ヲ廢シタルコト
 現行刑法ニハ兇徒聚衆ノ罪ヲ規定シ而シテ其罪ノ性質ヲ定メサルヲ
 以テ往々内亂ノ罪等ト區別判然セサルコトアルニ因リ改正法ニ於テ
 ハ之ヲ暴動罪トシテ其罪質等ヲ明ニセリ

第四十四 放火罪ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルコト
 現行刑法ニ依レハ人ノ住居シタル家屋ニ放火シタル者ト人ノ住居セ
 サル家屋ニ放火シタル者ノ刑ニ差等ヲ設ケタルハ可ナリト雖モ社寺
 劇場等人ノ住居ニ供セサル建造物ニシテ現ニ公衆ノ聚會シタルトキ
 若シハ人ノ現在スルトキ犯人之ヲ知テ放火シタル場合ヲ特ニ規定セ
 サルハ不可ナリ何トナレハ此場合ニ於テハ人ノ住居シタル家屋ニ火
 チ放チタルト其危險同一ナリト雖モ是等ノ建造物ハ固ヨリ人ノ住居

○説明書○第四十三第四十四

シタル家屋ト稱スルヲ得サレハナリ故ニ現行刑法ニ依レハ仍ホ之ヲ以テ通常ノ建造物ニ放火シタルト同ク處罰セサルヲ得サルカ如キ不權衡ヲ生スルニ至ルナリ又一箇ノ物件ニ放火シ他ノ重刑ニ處ス可キ物件ニ延燒シタル場合ニ於テ犯人ノ豫知ス可キトキト雖モ亦現行刑法ハ其明文ノ規定ナキヲ以テ犯人ニ其重キ刑ヲ科スルコトヲ得ス又現行刑法ニ自己ノ家屋ニ放火シタル者ハ總テ之ヲ處罰スルコトト爲シタリト雖モ山間僻邑ニ孤立スル家屋ノ如キ之ニ放火スルモ決シテ他ニ害ヲ及ホス可キノ恐ナキモノハ之ヲ罰ス可キノ理由ナカル可シ蓋シ所有權ノ一分ナル處分權ノ濫用ニ過キサルモノナレハナリ反之自己ノ所有ニ屬スル物件ト雖モ裁判所ヨリ差押ヘラレ又ハ抵當ト爲シタルトキハ之ニ放火スレハ直接ニ他人ノ權利ヲ害スルモノナレハ此場合ニ於テハ他人ノ所有ニ屬スル物件ニ放火シタルト同ク論セ

サル可カラズ之亦タ現行刑法ノ規定セサル所ナリ因テ改正法ニ於テハ是等ノ缺點ヲ補ヒタリ

又現行刑法ハ人ノ住居シタル家屋ニ火ヲ放テタル者ハ死刑ニ處スルコト、爲シタリ固ヨリ之カ爲メニ人ヲ死ニ致シ犯人ノ豫知シタル場合ニ於テハ之ヲ死刑ニ處スルモ可ナリ若シ然ラスシテ唯財產ヲ滅盡シ若クハ一般ノ安全ヲ害シタルノ點ノミヲ以テ之ヲ極刑ニ處スルハ不當ナリト言ハサル可カラズ放火ノ罪モ亦タ宜ク他ノ靜謐ヲ害スル罪ト共ニ權衡ヲ得セシム可キヲ正當トス因テ改正法ニ於テハ其放火ニ止マル者ハ死刑ヲ用ユルコトヲ廢シタリ

第四十五 決水罪ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルコト

決水罪ニ付テハ現行刑法ハ其家屋建造物ヲ漂失シタルトキノミ之ヲ重ク處罰スルコト、定メタリト雖モ決水ノ爲メ甚シク家屋建造物ヲ

害スルハ豈管ニ漂流ノミニ止マランヤ爲メニ家屋建造物ヲ水中ニ没シ若クハ爲メニ之ヲ泥土ニ埋メシメ終ニ家屋ノ使用ヲ爲スヲ得サラシムル場合ノ如キモ亦同様ニ處罰セサル可カラサルナリ又現行刑法ニ於テハ決水ノ爲メニ人ヲ死ニ致シ犯人豫メ之ヲ知り得ヘキ場合ノ處分ヲ明示セス因テ改正法ニ於テハ前上ニ述ヘタル現行刑法ノ不備ノ點ヲ補ヒタリ

又溢水ヲ致スニハ堤防ノ決潰水閘ノ毀壞ニ止マラス水路ニ妨害物ヲ置キ水利ヲ阻止シタルカ爲メニ溢水セシムル場合アリ然ルニ現行刑法ノ規定ニ依レハ此場合ヲ不問ニ付セサル可カラサルノ不都合アルヲ以テ改正法ハ亦之ヲ補ヒタリ

第四十六 船舶覆没ノ罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ノ規定ニ依レハ單ニ船舶ヲ覆没シ云々トアレハ船舶ヲ全ク

沈没セシムルニ非サレハ此罪ヲ生セサルナリ而シテ此ノ如ク覆没ノ意義ヲシテ狹隘ナラシムルトキハ實際ニ適セサル規定ト言ハサル可カラズ故ニ改正法ニ於テハ船舶ヲシテ他ノ救助ヲ受クルニ非サレハ繼續シテ航行スルコトヲ得サルトキ又ハ船舶ヲ坐礁シ自力ノミニ水上ニ浮フコトヲ得サルトキモ亦之ヲ覆没ト同ク論スルコトト改メタ

現刑第四百十五條
改刑第二百五十條

又現行刑法ニハ其船舶ノ犯人ニ屬スルト他人ニ屬スルトニ因テ罪ノ輕重ヲ區別シタルヤ否ヤ分明ナラサルヲ以テ改正法ハ其區別ヲ設ケ罪刑ノ適用ニ付キ疑ナカラシメタリ

第四十七 往來通信ヲ妨害スル罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニハ道路橋梁等ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル場合ノミヲ規定スト雖モ其他道路橋梁等ヲ壅塞シテ往來ヲ妨害スル場合アリ又其

實ニ妨害ヲ生シタル場合ノミニ止マラス妨害ヲ生シ得ヘカラシメタル者ハ亦タ等シ處罰セサル可カラサルナリ改正法ハ即チ其現行刑法ノ不備ヲ補ヒタリ

又現行刑法ハ瀛車ノ往來ヲ妨害スル罪ニ付キ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ヲ處罰スルコトト爲シタレトモ其妨害ヲ爲スノ方法ハ其他詐僞ノ標識ヲ點示スルカ如キモノモアル可シ故ニ改正法ハ廣ク是等ノ場合ヲ包含セシメンガ爲メ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル瀛車ノ危難ヲ招ク可キ所爲ヲ行ヒタル者ト改メタリ

又瀛車船舶ノ往來ヲ妨害スル罪ニ付テハ其妨害ノ意ナキモノト雖モ苟モ瀛車船舶ノ危險ヲ招ク可キ所爲ヲ行ヒタル者ハ實ニ危險ノ重大ナルモノナルヲ以テ之ヲ罰セサル可カラズ而シテ現行刑法ハ此場合

ヲ規定セサルヲ以テ改正法ハ其不備ヲ補ヒタリ

第四十八 風俗ヲ害スル罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

公然猥褻ノ所業ヲ爲シ又風俗ヲ害ス可キ冊子圖書等ヲ販賣シタル者神祠佛堂ニ對スル不敬ノ罪等ノ如キハ極メテ輕微ノ犯罪ナルヲ以テ之ヲ輕罪トシテ處分スルハ適當ノモノニ非サルナリ而シテ改正法ハ違警罪ノ刑ノ範圍ヲ擴張シタルヲ以テ是等ノ罪ヲ違警罪中ニ規定スルコトト爲シタリ

又賭博罪ニ付テハ現行刑法ハ其何レノ場所ニ於テ爲ヌチ問ハス盡ク之ヲ處罰スルコトト爲シタレトモ元來此罪ヲ風俗ヲ害スル罪ノ中ニ規定セシハ公ノ場所即チ衆人ノ目ニ觸ル可キ場所ニ於テ之ヲ行フニ因リテ然ルナリ其竊カニ行フ者ノ如キハ法律ノ之ニ干涉シテ罪ト爲ヌ可キモノニアラス蓋シ此所爲タル相互ノ契約ヲ以テ自己ノ財産ヲ

○説明書○第四十八

處分スルニ過キサルモノナレハナリ因テ改正法ハ之ヲ公ノ場所ニ於テ爲ス者ニ限り罪トシテ論スルコトト爲シタリ(改刑第二百七十三條)富講ニ關スル罪ニ付テハ現行刑法ハ唯其興行者ヲ罰スルニ止マリ其牙保幫助ヲ爲ス者或ハ其富籤ヲ購買スル者ハ皆之ヲ不問ニ措キタリ右ハ實際不當ノ規定ナルニ因リ明治十五年五月第二十五號布告ヲ以テ是等ノ所爲ヲ處罰スルコトニ定メタリト雖モ同種類ノ罪チ一ハ布告ニ又一ハ刑法ニ規定スルハ之亦タ規定ノ宜キヲ得タルモノト言フ可カラサルナリ故ニ改正法ニ於テハ其布告中處罰ノ嚴酷ニ過シルモノハ之ヲ除キ其他ノ分ハ之ヲ刑法中ニ移スコトト爲シタリ

第四十九 商業及農工業ヲ妨害スル罪ニ改正ヲ加ヘタルコト現行刑法ハ偽計又ハ威力ヲ以テ物品ノ賣買ヲ妨害スル者チ一般ニ罪トシテ處罰スト雖モ其一己人ヲ害スルニ止マル者ハ之ヲ民法上ノ賠

償ニ止メテ可ナリ收テ之ニ刑罰ヲ科スルノ必要ヲ感セサルナリ要スルニ其妨害ニシテ一地方ノ物價ニ昂低ヲ來サシムルカ又ハ其昂低ヲ妨ケル爲メニ爲シタルトキ即チ一地方全体ニ害ヲ及ホストキニ於テ之ヲ罪トシ罰スルチ正當ト爲ス故ニ改正法ニ於テハ是等ノ點ニ付キ現行刑法ノ規定ニ修正ヲ加ヘタリ而シテ其偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害スル罪チ廢シタルモ亦此理由ニ因リタルニ外ナシトス又現行刑法ニ於テハ虛偽ノ風説ヲ流布シテ物價ノ昂低ヲ來サシメタル者チ處罰スト雖モ此所爲ニシテ物價ヲ昂低セシメタルヤ否ヤハ何チ標準トシテ認ム可キヤ又果シテ其風説ニ原因セシヤ否ヤチ認ムルハ實際證明シ得ヘキモノニアラス然ルニ斯カル法文チ存スルハ徒ラニ有名無實ノ場合チ想像シタルニ過キサルモノト信シ斷然此規定チ廢シタリ

第五十 毆打創傷ノ輕キモノハ被害者ノ告訴ヲ要スルコトト爲シタルコト

人ヲ毆打シテ疾病ヲ生セシメ其時間二十日ニ至ラサルモノノ如キハ直ニ之ヲ罪トシ處罰スルハ穩當ノモノニアラス實際是等ノ場合ニ於テハ犯人ト被害者ノ間ニ私和スルヲ常トスルヲ以テ改正法ノ如ク此罪ニ付テハ被害者ノ告訴ヲ要スト爲シタルハ事理ニ適シタルモノナリトス

(改刑第二
百九十九條)

第五十一 初生ノ兒孫ヲ殺ス者ノ宥恕ヲ定メタルコト

亂倫姦通ニ因リ生シタル子ノ如キハ之ヲ生存セシメハ一家ノ恥辱ト爲テソコトヲ恐レ之ヲ蔽フ爲メニ其父母祖父母タル者之ヲ殺スコトナシトセス又一家生計ニ窮シ其子ヲ養育セントスレハ家内擧テ餓死セントスルノ境遇ニ陥ルノ恐アルヲ以テ已ムコトヲ得ス之ヲ殺ス者

亦之ナシトセス其所爲タル固ヨリ惡ム可シト雖モ其情ニ於テハ實ニ憫諒ス可キ所アリ故ニ從來是等ノ所爲ヲ裁判スルニ當リ故殺若クハ謀殺ノ罪ヲ酌量シテ處罰スト雖モ酌量減輕ニモ定度アルヲ以テ之ヲ用ユルモ猶刑ノ重キニ過シルノ弊アリ終ニ特典ヲ以テ減刑ヲ爲スノ已ムヲ得サルコトト爲レリ以上ノ理由ナルヲ以テ此罪ニ付テハ寧ロ法律ヲ以テ一般ニ宥恕ヲ與フルヲ正當ナリト認メ特ニ此場合ヲ刑法中ニ規定スルコトト爲シタリ

(改刑第二
百九十五條)

第五十二 過失創傷ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ要スルコトト爲シタルコト

過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ其事重大ナルヲ以テ被害者ノ告訴ヲ待タズ直ニ之ヲ罪トシテ處罰スト雖モ之カ爲メニ疾病創傷ヲ生セシメタル者ノ如キハ被害者ノ告訴アルニ非サレハ法律ニ於テ敢テ之

○説明書○第五十第五十一第五十二

ヲ處罰スルノ必要ナカル可キナリ且實際此罪ニ付テハ犯者ト被害者ノ間ニ私和シテ以テ事ノ落着ニ歸スルモノ比々皆然ルヲ以テ改正法ハ現行刑法ノ規定ヲ改メ此罪ニ付テハ被害者ノ告訴ヲ要スルコトト爲セリ(改刑第二百九十九條)

第五十三 墮胎罪ニ宥恕ヲ設ケタルコト

此理由ハ父母祖父母初生ノ兒孫ヲ殺害スルノ罪ニ宥恕ヲ設ケタルト同一ナルヲ以テ茲ニ重ネテ説明セス(改刑第三百九條)

第五十四 幼者老者病者ヲ遺棄スル罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニ依レハ幼者ノ遺棄ニ付テハ其幼者ノ八歳未満ナルコトヲ要スルモ其八歳以上ノ者ト雖モ仍ホ自活ノ途ニ就ク能ハサル者實際多キニ居ル然ルニ其八歳以上ノ幼者ヲ遺棄シタル者ヲ罪トセサルノ理得テ知ル可カラズ又現行刑法ニ所謂寥闕無人ノ地トハ果シテ如何

ナル場所ヲ指示スルモノナルカ明瞭ナラズ蓋シ人家稠密ノ場所ニシテ人ノ往來スルコト少キモノアリ又反之山間ノ地ト雖モ人ノ往來頻繁ナル場所アルヲ以テ幼者老者等ヲ遺棄シタル場所ノ如何ニ因テ罪ノ輕重ヲ設クルハ寧ロ法律ニ於テ其刑期ノ範圍ヲ廣クシ以テ刑ノ輕重ヲ裁判官ニ一任スルノ勝レルニ如カサルナリ故ニ改正法ハ此點ニ付キ現行刑法ニ修正ヲ加ヘタリ

又自己ノ所有地内又ハ管守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老者等ノアルコトヲ知テ之ヲ扶助セズ若シハ官署公署ニ申告セサル等ノ罪ヲ犯ス者ノ如キハ人類相救フノ本分ヲ盡クササル者ナリト雖モ現行刑法ノ如ク之ヲ輕罪トシテ處罰スルハ嚴ニ過クルヤノ嫌アリ故ニ此規定ヲ違警罪中ニ移シタリ

又父母祖父母幼者ヲ遺棄スル罪ノ宥恕ハ其生兒ヲ殺ス者ノ宥恕ノ理

○説明書○第五十三第五十四

宙ト同シキヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス (改刑第三
百十四條)

第五十五 逮捕監禁罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニ依レハ監禁ノ刑ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ止マルト雖モ其監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フトアリ又監禁シテ苛酷ノ所爲ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮及ヒ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スト規定シタルニ因リ若シ長キ年月間監禁ヲ爲シ且苛酷ノ所爲ヲ施シタル者ハ縦ヒ之ヲ長期ノ刑ニ處スルモ二年ニ過キサル可シ却テ單純ノ監禁ノミナルトキハ時トシテ二年以上ノ刑ニ上ル場合ナシトセス權衡ヲ失スルモノト言ハサル可カラス即チ改正法ハ此規定ヲ修正シテ以上ノ不權衡ヲ生セサラシメタリ (現刑第三百二十二條同第三百二十三條
改刑第三百十六條同第三百十七條)

又現行刑法ハ監禁制縛シテ苛酷ノ所爲ヲ施シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル場合ニ限り毆打創傷ノ各本條ニ依リ重キニ從テ處斷スルコト、爲シタルトモ人ヲ疾病死傷ニ致スノ場合ハ單純ノ監禁制縛ノトキニモ發生ス可キ事實ナリトス殊ニ此場合ニ於テ犯人ハ監禁制縛ノ爲メニ人ヲ疾病死傷ニ致スノ結果ヲ生ス可キコトヲ豫知シ得ヘキナリ因テ改正法ハ單純ノ監禁制縛ニ因リ此結果ヲ生シタルトキト雖モ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シタル者ノ例ニ擬シテ處斷スルコトニ改メタリ (改刑第三
百十八條)

又現行刑法ハ人ヲ監禁シ水火震災ノ際監禁ヲ解シコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル場合ヲ規定シタリト雖モ之ヲ水火震災ニ限り又監禁ヲ解シコトヲ怠リタルニ原因スル場合ニ限ルハ規定狹隘ニ失スルヲ以テ改正法ハ總テ此缺點ヲ補足セリ

第五十六 誹毀罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

○說明書○第五十五第五十六

現行刑法ハ惡事醜行ヲ摘發スルヲ以テ誹毀罪ノ要素ト爲シタリト雖モ元來此罪ハ人ノ名譽ヲ害スルニ在ルヲ以テ其摘發スル事實ハ敢テ惡事醜行ニ止マラス德義上ヨリ觀レハ其惡事醜行ニ非スト雖モ世人一般ノ感覺上ヨリ其人ノ名譽ヲ害ス可キ事之ナシトセス故ニ改正法ハ惡事醜行ノ文字ヲ改メテ人ノ名譽ヲ害ス可キ事實行爲ト爲シタリ又現行刑法ハ死者ニ對スル誹毀ノ罪ヲ定メタリト雖モ其理由ノ存スル所ヲ知ルニ困ムナリ若シ法律ハ死者ヲ保護センカ爲メ死者ヲ誹毀シタル者ヲ罪トシ處罰スルトキハ終ニ世間ニ眞正ノ歴史ナカラシムルニ至ル可シ然リト雖モ死者ノ事實行爲ヲ摘發シタルカ爲メニ其相續人ノ名譽ヲ毀損スルコトアリトセンカ即チ其相續人ヲ直接ニ誹毀シタルニ外ナケレハ誹毀罪ノ本條ニ依リ處罰スルヲ當然ナリトス故ニ改正法ハ此規定ヲ削除シタリ

又誹毀罪ノ性質トシテ事實ノ有無ヲ問ハサルハ當然ナリト雖モ株式會社ノ領取支配人等ニ對シテ其職務上不正ノ事アリトシテ誹毀シタル者ハ其事實ヲ證明シ得サルトキニ非サレハ之ヲ罪トセス必竟此所爲タル會社ニ關係シタル衆人ノ利益ヲ保護スルニ出タルモノト見做ス可キヲ以テナリ即チ官吏ヲ侮辱スルノ罪ト毫モ異ナルコトナキモノトス故ニ改正法ハ特ニ此場合ヲ規定セリ(改刑第三百三十條)官吏公吏ヲシテ懲戒處分ヲ受ケシムル爲メ不實ノ事ヲ構造シ其監督官吏公吏ニ申告シタル者ハ實際誹毀罪ト異ナラス其人ニ害ヲ及ホスコト亦タ誹毀罪ト相徑庭スル所之ナキヲ以テ改正法ハ此規定ヲ設ケテ以テ現行刑法ノ缺點ヲ補足セリ(改刑第三百三十二條)

第五十七 姦淫罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

睡眠昏絶其他精神ノ喪失ニ乘シ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ニ非スト

雖モ其婦女ヲ害スルコト強姦ト大ニ異ナル所之ナカル可シ而シテ現
 行刑法ニハ此點ニ付キ何等ノ規定ヲ爲ササルカ故ニ其姦淫セラレタ
 ル婦女十二歳以上ナルトキハ其犯人ヲ罰スルコトヲ得サルカ如キ不
 當ノ結果ヲ生ス可シ即チ改正法ニ於テハ特ニ此場合ヲ規定シ強姦ノ
 刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ罰スルコト、爲シタリ又現行刑法ハ十二
 歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處スト規定シタリト雖モ此
 場合ニ於テハ縱ヒ不完全ナリトハ言ヘ其幼女ノ承諾アリタルモノナ
 レハ之ヲ重罪ニ處スルハ嚴ニ過クルヲ以テ改正法ハ之ヲ輕罪ト爲シ
 タリ(改刑第三百三十六條
 同第三百三十七條)

又現行刑法ハ十六歳未滿ノ男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ノ罪
 ヲ定メテトモ白癡癡癡者ニ對シテ是等ノ所爲ヲ行ヒタル者ニ付テ
 ハ何等ノ規定ヲ設ケサルナリ而シテ白癡癡癡者ハ全ク精神ヲ喪失シ

又ハ其不充分ナル者ナルヲ以テ仍ホ幼者ト同ク茲ニ其規定ヲ設ケサ
 ル可カラサルナリ即チ改正法ハ此點ニ付キ現行刑法ノ不備ヲ補ヒタ
 リ

又現行刑法第三百五十四條ニ規定シタル重婚ノ罪ハ改正法ニ於テハ
 全ク之ヲ廢シタリ蓋シ重婚ノ所爲タル人ノ身分ヲ保護スル法律規則
 ノ存在セサルトキニ於テ成立ス可シト雖モ既ニ法律規則ノ存在スル
 我邦ニ在テハ一旦正式ノ婚姻ヲ爲シタル者重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ
 得サル可シ眞シヤ之ヲ爲スコトアリトスルモ此場合ニ於テハ婦ノ重
 婚ニ係ルトキハ其婦及ヒ相姦スル者ハ姦通ノ罪ニ依テ處罰シ得ヘケ
 レハナリ

第五十八 父母祖父母ニ對スル罪ノ特例ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニ於テハ子孫其父母祖父母ニ對シ毆打創傷監禁脅迫等ノ罪ヲ犯シタル者ハ凡人ノ刑ニ照シ各二等ヲ加ヘ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ死刑ニ處スルノ規定ヲ設ケタリ此規定タル頗ル嚴ニ過クルヤノ感アリ且其他身分ニ因テ刑ヲ加重スル場合ハ皆通常ノ刑ニ一等ヲ加フルノ例ナルヲ以テ此權衡ニ從ヒ現行刑法ノ規定ヲ改メ改正法ハ此罪ニ付テモ亦同一等ヲ加フルコト、定メタリ

(現刑第三百六十二條) 改刑第三百四十四條

又現行刑法ハ子孫其父母祖父母ニ對シ必要ナル奉養ヲ缺キタル者ノ罪ヲ本節中ニ規定スト雖モ改正法ハ其自ラ生活スル能ハサル老者病者ニ係ルトキハ第三百十一條以下ノ例ニ照シテ各一等ヲ加ヘテ處罰ナルヲ以テ足レリト爲セリ若シ其自ラ生活シ得ル者ナルトキハ其奉養ヲ缺キタル子孫ハ父母祖父母ニ對シ民事上ノ制裁ヲ受クルニ過キサルナリ而シテ其民事上ノ義務ヲ缺キタル所爲ヲ刑法ニ於テ罪トシ

處罰スルハ當テ得タルモノニ非ストス其他此罪ニ付キ現行刑法ノ最も重大ナル瑕瑾トスヘキモノアリ即チ子孫其父母祖父母ヲ故殺スルトキ他人共犯タルトキト雖モ死刑ニ處セラレス然ルニ若シ子孫其父母祖父母ニ對シ奉養ヲ缺キタルガ爲メ死ニ致シタル場合ニ於テ他人其事ニ與カルトキト雖モ元來奉養ノ義務アルニ非サレハ徹頭徹尾之ヲ無罪トスルカ或ハ此所爲ヲ以テ有罪トスルトキハ子孫ト共ニ死刑ニ處セサル可カラサルニ至ルナリ其レ此ノ如ク現行刑法ノ規定ハ首尾相貫徹セサルノ結果ヲ來ス可キヲ以テ改正法ハ奉養ヲ缺クノ規定ヲ削除スルコトト爲シタリ

又現行刑法ハ父母祖父母ニ對スル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕不論罪ノ例ヲ用ヒスト規定シタルヲ以テ子孫其父母祖父母ニ對シテ正當防衛ノ權ヲ行ヒタルトキハ罪トナリ却テ自ラ天災等ヲ免ルル爲メニ行ヒタ

ル所爲ハ罪トナラズ即チ父母祖父母子孫ニ對シテ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ子孫之ニ抗スルトキハ罪トシテ處罰セラレ父母祖父母子孫ニ對シテ過失ナキトキニ於テ子孫ノ所爲無罪トナルカ如キ奇怪ナル結果ヲ生スルヲ見ルニ至ル而シテ此規定タル到底事理ニ乖戾スルモノタルヲ免レサレハ改正法ニ於テハ斷然此規定ヲ廢スルコトト爲シタリ

第五十九 住所ヲ犯ス罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ人ノ家宅ニ侵入シタル所爲ノミヲ以テ罪ト爲シタリト雖モ犯人潛伏スルトキ又ハ家人若クハ看守者ノ不在ニ乘シテ侵入シタルトキヲ除クノ外單ニ侵入シタル所爲ノミヲ以テ罪ト爲スハ稍々嚴ニ過クルノ規定ナリトス蓋シ此場合ニ於テハ何等ノ危害ヲ生ジサルヲ以テナリ故ニ改正法ニ於テハ單ニ家宅ニ侵入スル罪ニ付テハ家人

ノ制止ヲ受ケテ退去セサルコトヲ以テ必要ノ條件ト爲シタリ(現刑第百七十一條改刑第三) 百四十六條

第六十 盜罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ニ於テハ自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又官署ノ命令ニ依リ他人ノ監守シタルトキ之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ明変アリト雖モ強盜ニ付テハ此規定ナシ因テ改正法ハ此規定ヲ一般ノ盜罪ニ及ホスコトト爲シタリ(改刑第三) 百五十條

現行刑法ニ於テハ田野山林牧場ニ於テ其產物ヲ竊取シタル者ハ其害ノ多少ヲ問ハズ特ニ其刑罰ヲ輕クシタリ然レトモ是等ノ竊盜ニシテ他ノ物件ヲ竊取スルヨリ莫大ナル損害ヲ來スモノアリ加之ナラズ一般ノ信用ニ委ネタル物件ヲ盜取スルハ犯シ易クシテ防キ難キモノナレハ是等ノ罪ヲ特ニ輕クスルノ謂之ナカル可シ故ニ改正法ハ此區別

○説明書○第五十九第六十

チ廢シ一般ニ竊盜ヲ二月以上四年以下ノ有役禁錮ニ處スルコトト定
 メ以テ犯罪相當ノ刑罰ヲ科スルコトト爲シタリ然レトモ家宅其他ノ
 建造物外ニ於テ竊盜ヲ爲シ其贓額五圓ニ滿サルモノ又ハ其竊盜ノ未
 遂犯ニ係ルモノハ害ヲ生スルコト尠ナルモノニシテ其建造物ニ侵
 入シテ竊盜ヲ爲シタル者トハ大ニ犯狀ヲ異ニシ多クハ偶然ノ發意ニ
 出テ其犯意未ダ熟セサルモノナレハ罪ノ最モ輕キモノナリトス且此
 ノ如キ輕微ノ罪ハ之ヲ地方裁判所ノ合議裁判ニ付ス可キノ眞價ナク
 寧ロ其犯罪地ニ近接スル區裁判所ノ管轄ニ屬セシムルヲ以テ便宜ト
 爲ス故ニ其刑ヲ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ改メタリ(現刑第三
 百五十二條及同第三百五十八條)
 又現行刑法ニ於テハ強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シ
 タル者ハ死刑ニ處スト規定シタリ然ルニ其創傷ニ輕重ノ別アリ些細

ノ創傷ヲ負ハシメタル場合ニ於テモ仍ホ之ヲ無期徒刑ニ處スルハ嚴
 ナリ又死ニ致シタル場合ニ於テモ其殺意ナキ者ヲ死刑ニ處スルハ亦
 タ嚴ニ過クルモノナリト言ハサル可カラス因テ改正法ニ於テハ是等
 ノ場合ヲ區別シ現行刑法ノ規定ニ修正ヲ加ヘタリ(現刑第三百八十三
 條)

又暴行脅迫ヲ用ヒテ權利義務ニ關スル證書ヲ作り之ヲ交付セシムル
 カ又ハ既ニ存在スル證書ヲ滅盡セシムル者ハ實際其財物ヲ強取スル
 ト異ナル所之ナカル可シ然ルニ現行刑法ニハ此點ニ付キ何等ノ規定
 ナキヲ以テ改正法ハ特ニ此場合ヲ規定シ現行刑法ノ缺點ヲ補足シタ
 リ(改刑第三百
 六十五條)

第六十一 家資分散ニ關スル罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

從來破産ト家資分散トノ區別ナカリシモ既ニ商法ニ於テハ有罪破産

ノ規定アリ又民事上ニ付テハ家資分散ノ制アリ然ハ則チ現行刑法ノ家資分散ニ關スル規定ハ之ヲ民事及ヒ商事ニ適用セサル可カラサルナリ殊ニ商事上ノ破産ハ其害商業社會一般ニ波及スルモノニシテ民事上ノ家資分散ノ如ク限定シタル債權者ノミニ害ヲ及ホスモノノ比ニアラス故ニ改正法ニ於テハ破産ノ罪ニ付キ特ニ刑罰ヲ重クシタリ

第六十二 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ其第三百九十條ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲ス下定メ而シテ第三百九十二條ヲ以テ物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐偽取財ヲ以テ論ス又第三百九十三條ヲ以テ他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シ

タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス下規定シタリト雖モ第三百九十二條及ヒ第三百九十三條ニ記載シタル所爲果シテ詐欺ノ方略ヲ以テ人ヲ錯誤ニ陥レ不正ノ利益ヲ得タルモノナリトセハ即チ純然タル詐欺取財ナリ別ニ詐欺取財ヲ以テ論スト言フニ及ハサルナリ又第三百九十三條第二項ニ自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物トナシタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者亦同シ下規定シタレトモ現今不動産ノ賣買抵當等ニ付テハ登記ノ方法アルヲ以テ之ヲ犯サントスルモ得サルナリ良シヤ之ヲ犯スコトアリトスルモ必竟第二ノ買主等ノ怠慢ヨリ生スルニ在テ之ヲ一箇ノ犯罪ト爲ス可キ理之ナカル可シ因テ改正法ニ於テハ右第三百九十二條及ヒ第三百九十三條ハ總テ之ヲ削除スルコトト爲シタリ

又現行刑法ニハ他人ノ印願又ハ捺印署名シタル白紙ヲ預リタル者不

○説明書○第六十二

正ニ證書ヲ造リタル罪ヲ規定セテ而シテ此所爲タル之ヲ私文書偽造罪トシテ論ス可キ性質ノモノニ非サレハ終ニ不問ニ措カサル可カラサル結果ヲ生スルナリ故ニ改正法ニ於テハ之ヲ背信ノ罪ト爲シ特ニ規定ヲ設ケタリ

(改刑第三百七十九條)

又他人ノ所有ニ屬スル土地ヲ占領スル爲メ又ハ其土地ノ利益ヲ得ル爲メ經界ヲ表シタル物件ヲ毀棄シ又ハ移轉シタル者ハ現行刑法ニ於テ物品毀壞ノ罪ト爲シ輕シ處罰シタリ然レトモ此所爲タル實ニ其物品ニ對スル罪ニ非スシテ他人ノ土地所有權ニ對スル罪ナリトス即チ此所爲モ亦タ一種ノ詐欺取財タルニ外ナケレハ改正法ハ之ヲ詐欺取財ノ罪ノ中ニ規定スルコトト爲シタリ

(現刑第四百二十條改刑第三百八十條)

第六十三 贓物ニ關スル罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ強盜盜ノ贓物ト詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル贓物トニ因

テ刑ニ輕重ノ差ヲ設ケタリト雖モ犯人其贓物ヲ寄藏故買スル所爲ヨリ觀察スルトキハ其強盜盜ニ關スルモノト他ノ罪ニ關スルモノトニ因テ區別ヲ設クルノ理之ナカル可シ故ニ改正法ニ於テハ其區別ヲ廢セリ

又平常贓物ヲ故買シ若シハ牙保スルヲ以テ常業ノ如ク爲ス者アリ必竟此ノ如キ者アルニ因リ自然贓罪ヲ增加スルニ至ルモノナレハ之ヲ以テ常業ト爲ス者ノ如キハ最モ重シ處罰セサル可カラサルナリ故ニ改正法ハ特ニ此場合ニ付キテ刑ヲ定メタリ

(改刑第三百八十三條)

第六十四 物品毀壞ノ罪ニ改正ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ建造物ト他ノ物品トニ因リ之ヲ毀壞シタル者ノ刑ニ輕重ヲ設ケタリト雖モ凡ソ其物品ノ不動産ナルカ故ニ損害多ク動産ナルカ故ニ損害少シトスルハ皮相ノ見解ニ過キサルナリ動産ト雖モ數百

○説明書○第六十三第六十四

萬圓ノ價格ヲ有スルモノ世間其類ニ乏カラス必竟是等害ノ多少ハ其事實ニ因テ異ナルモノニシテ物品ノ性質ニ因リ豫メ之ヲ一定シ得ヘキモノニ非サルナリ故ニ改正法ニ於テハ此罪ニ付キ刑ノ範圍ヲ廣クシテ十一日以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルコト、爲シ以テ裁判官ヲシテ事實ニ相當スル刑ヲ科セシムルコト、定メタリ(現刑第四百十七條乃至第四百二十四條改刑第三百八十五條)

又現行刑法ハ物品ノ毀壞及ヒ家畜ノ殺死ヲ罪トシテ處罰スト雖モ人ノ財産ヲ害スルハ當ニ此ニノ場合ニ限ラサルナリ即チ或ハ其物品ヲ消滅セシメ若クハ全ク使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル場合等之アル可シ故ニ改正法ニ於テハ之ヲ明記スルコト、爲シタリ

又現行刑法ニハ人ノ所有物ノミニ付テ規定ヲ設ケタリト雖モ自己ノ所有物ニシテ裁判所ヨリ差押ヘラレ或ハ抵當ト爲シタルモノヲ毀壞

スルトキハ仍ホ他人ノ財産權ヲ害スルモノナルヲ以テ改正法ニ於テハ之ヲ他人ノ所有物ト同ク論スルコト、爲シタリ(改刑第三百八十六條)

前上述ル如ク物品毀壞ノ罪タル害ヲ與フルノ大小ハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得サルナリ或ハ物品ニ因テハ殆ント害ヲ生セサルモノアリ故ニ立法者ハ豫メ其區別ヲ立ルコトヲ得サルヲ以テ此罪ニ付テハ總テ被害者ノ告訴ナケレハ害ノ生セサルモノト見做シ當然刑事ノ訴追ヲ爲サシメサルコトト爲シタリ(改刑第三百八十五條)

明治廿四年四月二十日印 刷
同 年四月廿四日 鰹刻出版

〔正價金三十錢〕

鰹刻兼發行者

東京市日本橋區通三丁目八番地寄留

岡 島 眞 七

印刷者

大阪市東區南久寶寺町四丁目廿一番屋敷

岡 島 幸 次 郎

發兌所

大阪市東區本町四丁目百五十四番屋敷

岡 島 眞 七

同

大阪市東區南久寶寺町四丁目廿一番屋敷

岡 島 寶 文 館

同

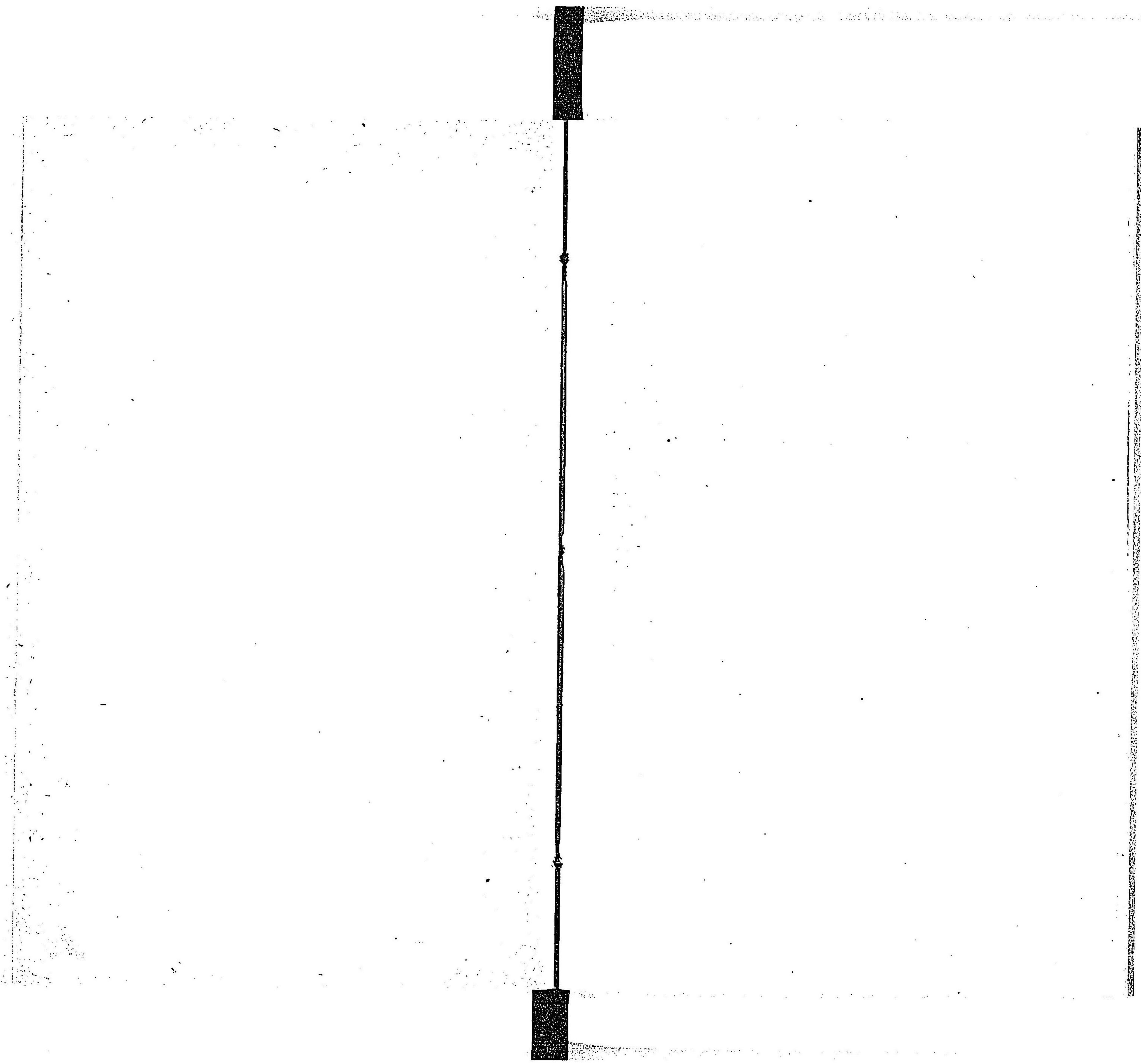
大阪市東區備後町四丁目十九番屋敷

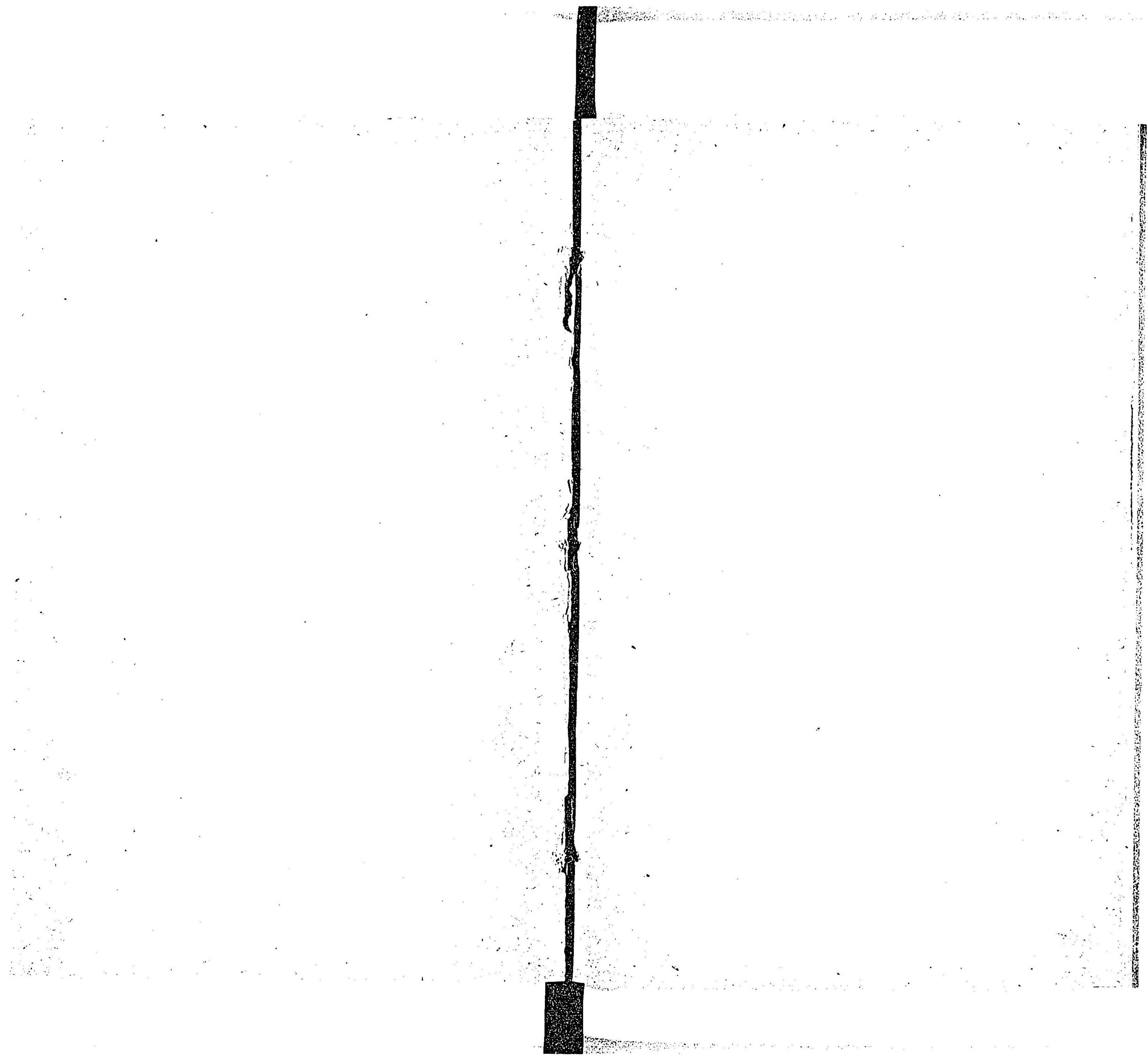
岡 島 支 店

同

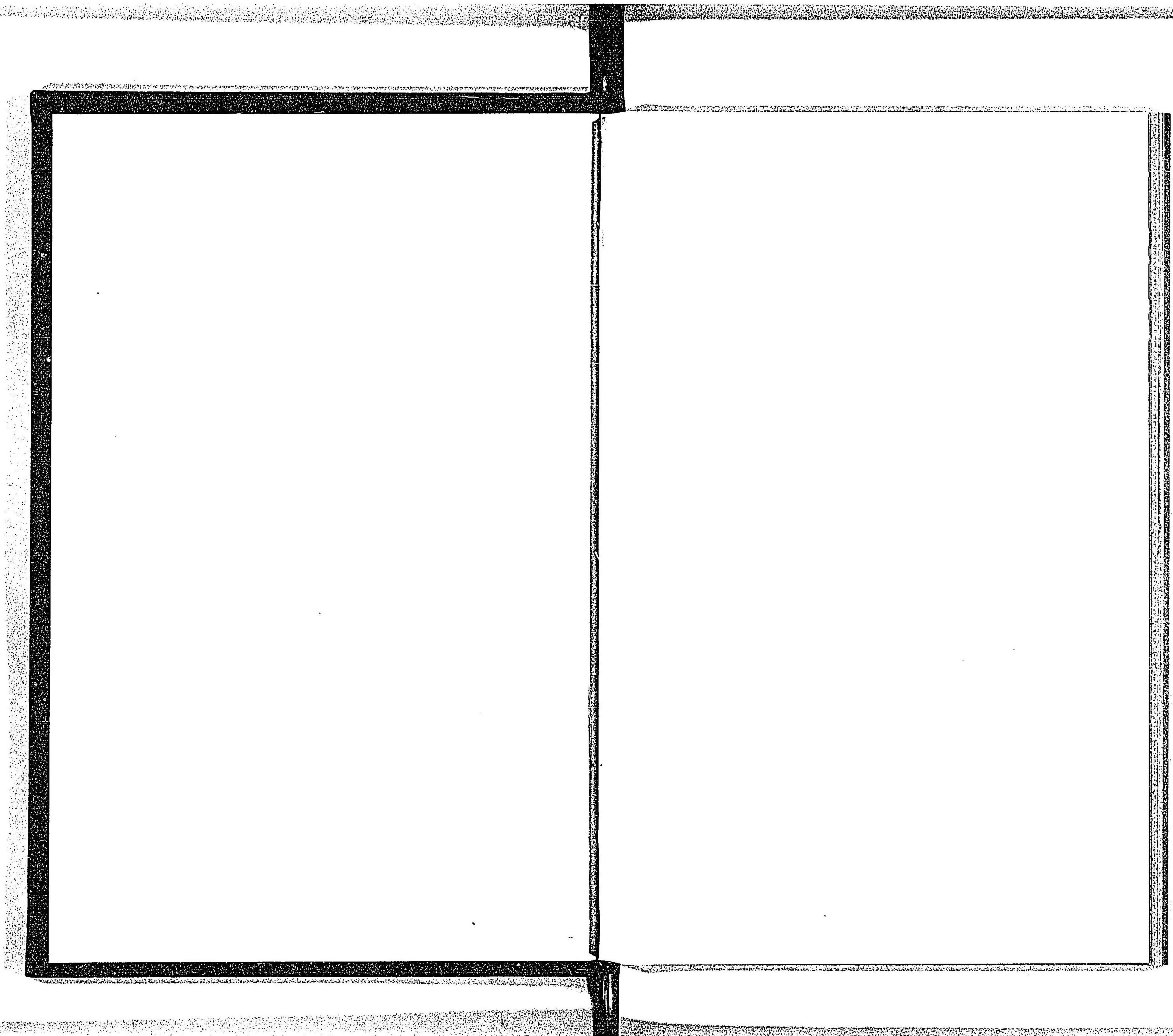
東京日本橋區通三丁目八番地

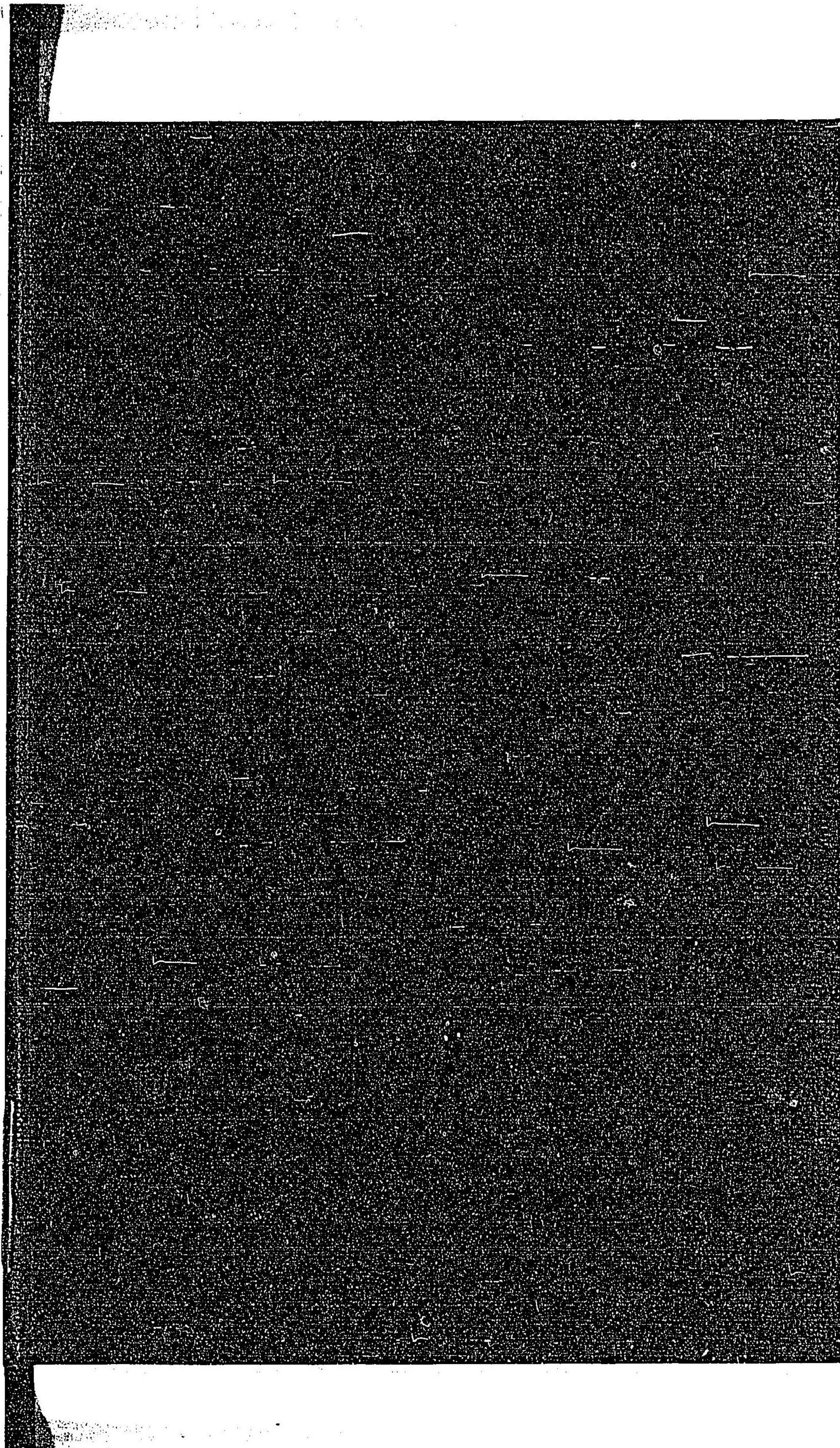
岡 島 支 店





ZH 23





特15

245

035522-000-5

特15-245

改正刑法草案改正刑法案説明書

岡島真七

M24

BBP-0064



